均建築

KINKENCHIKU:2022

11

特集／九州の建築

建築と旅

若松均
内山裕嘉
小塚翔二朗
佐藤竜介
武井元樹
爲我井雅揮
宗形雅彦
飯井千博
荻原悠真
斎藤陽仁
益山直貴
三須柚花
家村しずか
近江麻希
小山あゆみ
宮沢麻莉奈
横関あかね
渡邊優樹

11
26

小倉駅南口集合	9：00
西日本総合展示場	9：05
北九州国際会議場	10：30
北九州市立図書館	11：00
	12：00
北九州市立美術館	13：45
	15：00
血の池地獄	16：35
	16：55
ビーコンプラザ	17：10
	17：40
チェックイン	18：10

11
27

ホテル発	8：35
大分県立図書館	9：00
	9：30
旧大分県立図書館	9：40
	11：20
大分県立美術館	11：30
	12：00
富士見カントリークラブ	13：20
	13：50
大分市野津原支所	14：20
	14：30
ラムネ温泉館	15：00
	16：10
大分市野津原支所	14：20
	14：50
ラムネ温泉館	15：00
	16：10
湯布院ツーリストインフォメー	17：00
ションセンター、由布院駅	17：40
木魂館	18：30

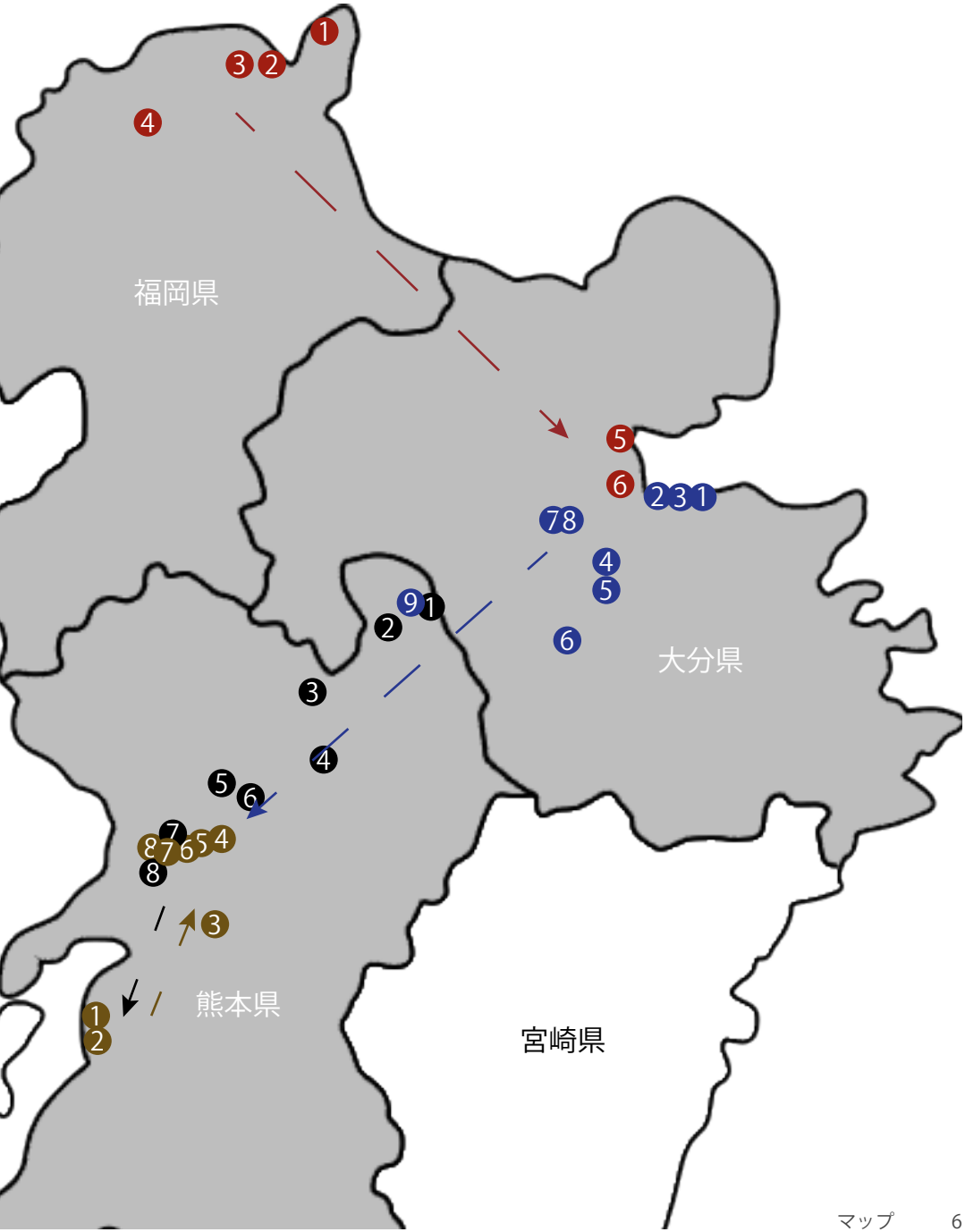
11
28

ホテル発	9：00
旧西里小学校	9：10
	9：40
小国ドーム	10：00
	10：20
阿蘇スカイライン	10：45
	11：00
孤風院	11：30
	12：20
熊本農業大学学生寮	13：00
	14：00
熊本総合航空防災センター	15：00
	16：00
再春館製薬女子寮	16：00
	16：45
熊本駅	**17：00**
	17：30

11
29

ホテル発	9：20
八代市立博物館	10：20
八代市民俗伝統芸能伝承館	12：20
エバーフィールド	13：00
	13：30
熊本県営託麻団地	13：55
	14：20
熊本県営保田窪第一団地	14：30
	15：00
熊本中央警察署	15：15
	15：45
熊本城	16：00
熊本県立美術館	17：30
熊本駅	17：40

Day1
1. 西日本総合展示場 p7.8
2. 北九州国際会議場 p9,10
3. 北九州市立図書館 p11,12
4. 北九州市立美術館 p13,14
5. 血の池地獄 p15,16
6. ビーコンプラザ p17,18
Day2
1. 大分県立図書館 p19,20
2. 旧大分県立図書館 p21,22
3. 大分県立美術館 p23,24
4. 富士見カントリークラブ p25,26
5. 大分市野津原支所 p27,28
6. ラムネ温泉館 p29,30
7. 湯布院ツーリストインフォメーションセンター p31,32
8. 湯布院駅 p33,34
9. 木魂館 p35,36
Day3
1. 旧西里小学校 p37,38
2. 小国ドーム p39,40
3. 阿蘇スカイライン
4. 孤風院 p41,42
5. 熊本農業大学学生寮 p43,44
6. 熊本総合航空防災センター p45,46
7. 再春館製薬女子寮 p47,48
8. 熊本駅 p49~54
Day4
1. 八代市立博物館 p55,56
2. 八代市民俗伝統芸能伝承館 p57,58
3. エバーフィールド p59,60
4. 熊本県営託麻団地 p61,62
5. 熊本県営保田窪第一団地 p63,64
6. 熊本中央警察署 p65,66
7. 熊本城 p67,68
8. 熊本県立美術館 p69,70


福岡県
大分県
熊本県
宮崎県

11/26
[Sat]

西日本総合展示場

磯崎　新

竣工年
本館 1977 年 新館 2005 年
住所
北九州市小倉北区浅野 3 丁目 7-1

水のメタファで構成された建築

小倉港に面して計画された見本市などのための展示場。帆船のマストを思わせるケーブル・タワーが郡立し、斜張構造によって 42.3m×172.8m に無柱空間が生み出されている。

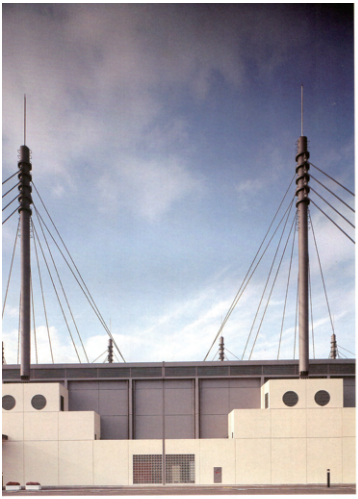
展示場と管理部分の間に中庭が設けられ、野外施設場として使用されるほかは、ふだんは水が張られている。また、展示場の内部は、水面下をイメージさせるべく天窓から自然光を多く採り入れるなど、船のような外観をはじめ、この建築では一貫して水にかかわるメタファが用いられる。

[料金]　入館料無料
[開館時間]　9:00-22:00

西日本総合展示場の見どころ

半透明で曖昧な半屋外空間

ケーブルの空間内での分布は、実際に屋根と壁で囲われている内部空間の外側に、もうひとつの仮想の空間を作り出す。このケーブだけでかたちづくられる空間は、ちょうど、薄い膜面で囲われた建物の外側に、内部の応力を噴出させ、エーテル状に取り囲んでいるのだと見てもいい。この空間は、両側に張られたバックステイ・ケーブルの下をくぐってアプローチする時に、直接身体で感じることができる。このゾーンはいずれも、線材だけで囲われた半透明の曖昧な空間で、半屋外で呼んでいい場所である。



外観のケーブル

構造体ー斜張橋

２本のマストを両側に立て、その中間に組まれた鉄骨フレームを斜張ケーブルによって引っ張り上げる。また、両側にバックステイ・ケーブルがバランスするように張られていて、このような構造形式は、斜張橋に由来している。橋梁のように、単純な直線材に力まかせに引っ張るのではなくて、むしろ細いケーブルが、均衡をもって分布して、結果として屋根の構造フレームを軽減させようとするところに設計の意図がある。

屋根ー海面

最小限の成 (ライズ) を持った鉄骨梁を組んで、その間に帯状のスカイライトを取っている。海中に潜って、海面を見上げた時に、ゆらめくような光の膜面が太陽光を乱反射させながら頭上にかぶさっている、こんな状態を内部空間に入った時に実現させようとする意図の解にはならなかった。

大空間の大展示場

11/26
[Sat]

北九州国際会議場

磯崎新

竣工年
1990 年
住所
北九州市小倉北区浅野三丁目 8-1

当時の最新設備を備えた、新しい複合施設としての国際会議場

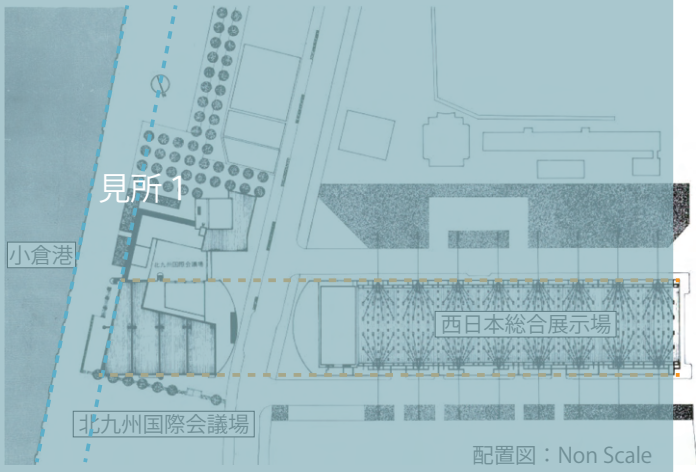
用り屋根構造を連続させて 50x200m の無柱空間を実現した西日本総合展示場のある一帯を、ヨーロッパ型のメッセを範としたコンベンション地区として開発する計画が数年来練られてきた。その中核的な施設となるのがこの国際会議場である。もともと総合展示場は重量物の展示にほぼ限られたハードな施設で、当初から、よりソフトで高質なものの展示場所の需要があった。一方、最近のコンベンション施設は、新しいさまざまの映像音響装置や情報通信設備を駆使した能率的、効果的な会議運営が可能であること、イベントや集会、展示やレセプションなど、コンベンションに関連する諸々の要求にも対応できることなどが必要となってきている。この建物は、そうした需要や傾向をふまえ，最新の設備を備えた新しい複合施設としての会議場をめざしたものである。

[料金]　無料
[開館時間]　9:00~22:00

北九州国際会議場の見どころ

二つの軸からなる全体構成

敷地は西側で正対する総合展示場と、東側のフェリーの発着場に挟まれている。展示場の軸線と、それに対しおよそ13度という曖昧な角度をなす岸壁線から決まる軸線の両者を考慮した結果、建物の全体構成は、そうした二つの軸から生じる二つの幾何学的な系が、そのままの角度で並置されたものとして与えられる。



配置図：Non Scale

シェル屋根

大空間の議場とイベントホール、および国際会議室の屋根はデザイン上の問題と遮音性の条件からコンクリートシェルとなった。それは厚さ12cm、波長約15m、振幅3.5mの複合円弧の断面型をもつ波型をしている。

当時の最新設備

メインホールは200インチのハイビジョンスクリーンを含む3面の大型映像装置をはじめ5ヶ国語同時通訳設備、各種会議用サポート機器など、最新の会議用設備を備える。こうした映像音響装置によって、国際会議室やその他の会議室も含め、各部屋相互間はもちろん、通信回線や衛星中継を利用した海外との国際TV会議も可能。

プログラム

機能上のプログラムは、600人収容の総会議場としてのメインホールと、1,000人規模のレセプションも可能なイベントホール、100人程度の高度な会議が可能な国際会議室、多用途に使える中小会議室などのほか、レストランやラウン、特別室、各種業務室などである。これらの諸室が中庭を囲んで配されている。

見所 2

イベントホール

11/26
[Sat]

北九州市立中央図書館

図書館・歴史博物館・視聴覚センター

磯崎新＋環境計画

竣工年
1975 年
住所
北九州市小倉北区城内４－１

建築ができあがってから……（新建築 1975 年 10 月論考一部抜粋）

北九州市の中央図書館、歴史博物館、視聴覚センターをひとつの敷地にまとめて建設するというプログラムであった。（中略）設計の当初のプログラムは不確定な要因（これまでにないプログラムの合併）を多数含んでいた。もちろんこの３つの施設を分離して、地下で機会系統を介して連結するのも可能であったがそういう計画にひきこむにはプログラムに不確定な要因が多すぎた。こういう計画の常として、全体規模があらかじめ決められているために、不確定な３つの形態を操作するのは直ちに暗礁にのりあげることが予想できた。それに対しては広い無限空間をつくり、必要な部屋を割つけていくこともできたけど、これも採用しなかった。不確定部分をその細部として包含しながらも単一の形態としてまとまり得るもの、プログラムとその条件からこの辺りに、ひとつ適切な解がありそうだと見当がつけられた。（磯崎新）

[料金]　無料
[開館時間]　9:30~18:00（駐車場１時間無料）

北九州市立中央図書館の見どころ

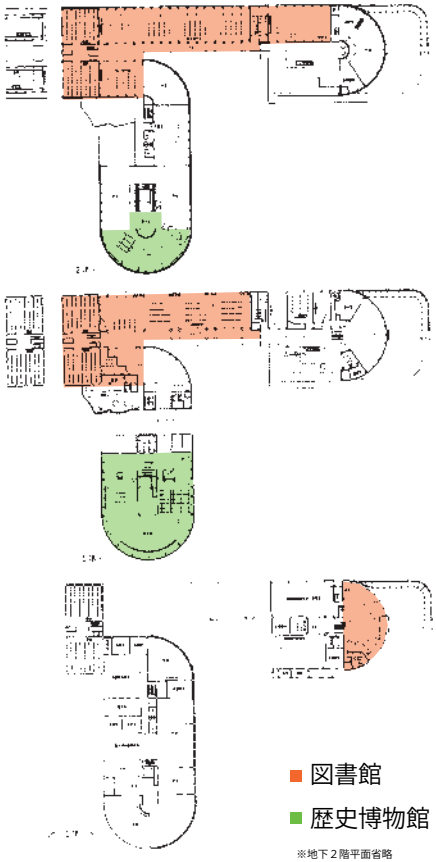
不確定部分の包含

論考で書かれている不確定の部分の包含としての計画と思われる箇所を抜粋する。

・図書館の平面計画を決定づけているのは斜路である。斜路は中間領域となり、床レベルの基準線にもなっている。

・歴史博物館では天井の高い空間の展示のランダム性、見かけ上の乱雑な配列、ジグザグな同線によって、展示室をより複雑に体験してもらう工夫がされている。

このようなに多様な機能を一つの建築に収める工夫にこの建築の魅力があるのではないかと睨んでいる。是非皆さんもそうした視点で見学してみるといいかもしれない。



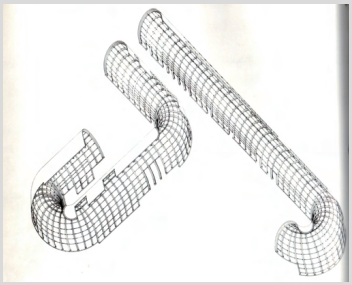
※地下２階平面省略

単一の形態として（ヴォールト）

屋根の形態にヴォールトを採用されたことで、この建築のほとんど全部の特性が決定づけられている。ヴォールトは一定の幅で一方向に連続していく。ここではその幅が 10.8m である。内部空間はそれ故この幅で一定方向で延びていく。平面は二つの並列し湾曲するヴォールトでほとんど決定づけられてしまっている。

設計の段階では PC パネルのリブで空間を形づくるようなデザイン上の指向性は何もなかった。むしろ PC パネルの構造の解決ととり合いや収まりにもっぱら設計の時間が費やされている。この天井はそれ故に、ヴォールトを PC 工法を用いて組み立てるという方式を採用したときにきまったものである。

俯瞰図


ヴォールト構成図

11/26
[Sat]

北九州市立美術館

磯崎新

竣工年
1974 年
住所
福岡県北九州市戸畑区西鞘ヶ谷町 21-1

丘の上の双眼鏡

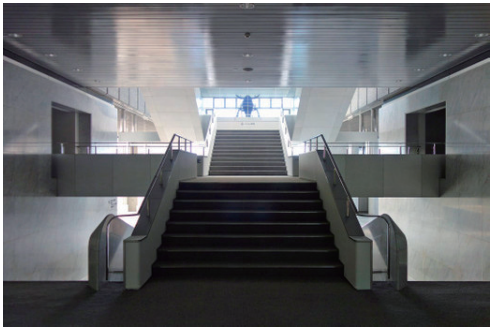
設計は大分出身の磯崎新。本館はグリッドを基調にしたデザインで、ファサードから二本の筒が飛び出し、左右に比翼が伸びたユニークな形をしており、「丘の上の双眼鏡」の愛称で呼ばれている。小倉、戸畑、八幡の三区にまたがる丘の上にあり、臨海工業地帯と市街を見下ろす場所に位置している。1974 年、北九州市立中央図書館・富士見カントリークラブハウスなどの大型建築を氏は同時に完成させた。それゆえ当時 1974 年は日本建築シーンにおいて磯崎新の年と呼ばれた。

[料金]　入館料 200 円 (本館)/800 円 (分館)
[開館時間]　9:30~17:30

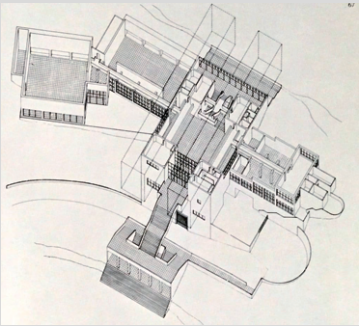
北九州市立美術館の見どころ

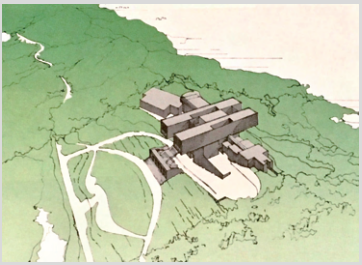
直方体の間の階段

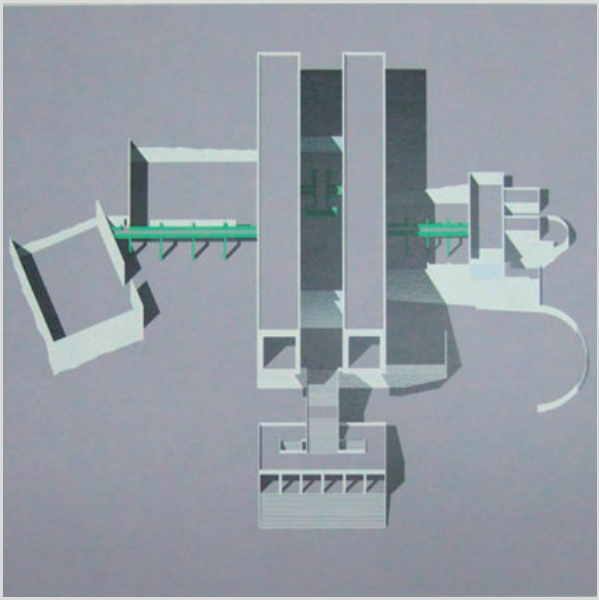
エントランスホール正面には折り返しのある中央階段が象徴的に鎮座している。半分上がると大きな踊り場があり、正面には太陽の光に照らされる緑が映える。振り返って半階上がると、2 階のブリッジ回廊のレベル。さらに半階あがってホールにせり出した踊り場があり、折り返して 3 階へといったダイナミックな階段の構成である。



Drawing







11/26
[Sat]

血の池地獄

竣工年

住所
大分県別府市野田 778

ようこそ血の池地獄へ

血の池地獄は 1300 年以上前から存在する日本で一番古い天然の地獄で、一言で言うなら「赤い熱泥の池」である。奈良時代に編纂された書「豊後国風土記」に”赤湯泉”の名で記された。地下の高温、高圧下で自然に化学反応を起こし生じた酸化鉄、酸化マグネシウム等を含んだ赤い熱泥が地層から噴出、堆積するため、池一面が赤く染まる。

[料金]　400 円
[開館時間]　8:00~17:00

血の池地獄の見どころ

地獄めぐり

『血の池地獄』『海地獄』『竜巻地獄』『白池地獄』『鬼石坊主地獄』『鬼山地獄』『かまど地獄』。この別府の七つの”地獄”を 2 時間前後で巡る小旅行の事を”別府 地獄めぐり”と呼ぶ。この風習は古く、江戸時代には始まっていたと記録が残っている。1 つの地域にこれだけの奇景が集まったのは、源泉数・湧出量共に日本一である別府ならではである。

海地獄

竜巻地獄

白池地獄

かまど地獄

足湯

入場者は、どなたでも足湯をお楽しみ頂けます。足湯に入りながら血の池プリンを是非どうぞ。

血の池軟膏

血の池地獄から湧き出る粘土から作られた皮膚病に効く軟膏を販売しています。

血の池軟膏

売店

大分・別府の名産品やオリジナル商品が、約 100 坪の店内にたくさん揃っています。

極楽亭

お食事処「極楽亭」は、血の池地獄に隣接するお食事処です。大分名物のだんご汁や鳥天、別府名物の地獄蒸し、また極楽亭オリジナルの料理もお楽しみ頂けます。

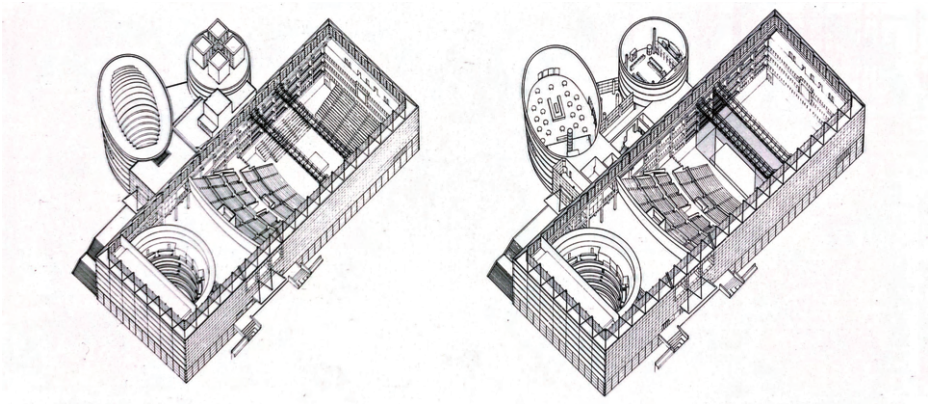
足湯

11/26
[Sat]

ビーコンプラザ

磯崎　新

竣工年
1995 年
住所
大分県別府市山の手町 12-1

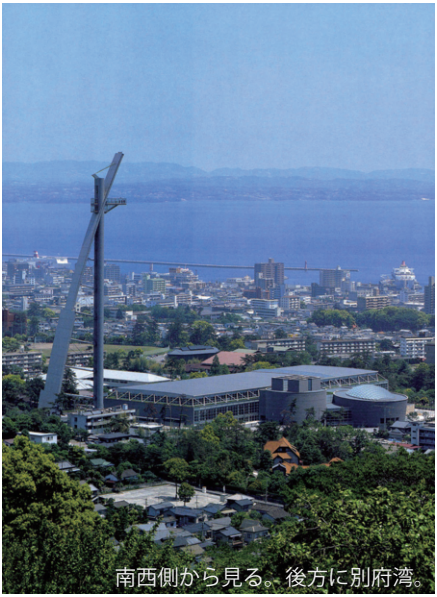


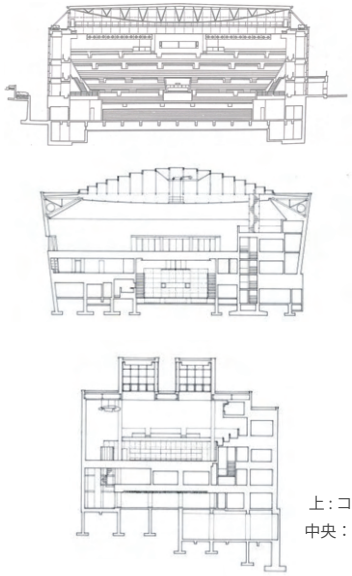
4 つの機能 / 形態と余剰

施設はコンベンションホール , フィルハーモニアホール国際会議場 , レセプションホールの 4 つの集合空間とグローバルタワーから構成されている。本体は 4 つの異なった目的をもつ集合空間に、それぞれ独自の幾何学的な形態を充当し、それらがホワイエを介して集合している。すなわち、馬蹄型のフィルハーモニア、扇型のコンベンション、円筒型の国際会議場、楕円型のレセプションホールがいずれも内部に囲い込む空間として自立するようにソリッドな壁でその外殻がつくられ、これらのマッスの切り取った残余が共通のエントランス、ホワイエなどの空間になるように計画されている。

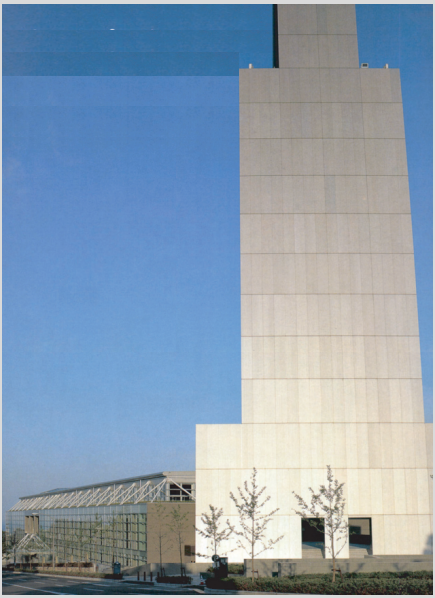
[料金]　無料
[開館時間]　グローバルタワー 9:00~21:00

ビーコンプラザの見どころ


南西側から見る。後方に別府湾。



各断面図
上：コンベンションホール
中央：レセプションホール
下：国際会議棟


チタンクラッド鋼でできたタワー

シンボルのグローバルタワー

別府公園の中心、海抜 0m の地点を球心とする直径 1km の巨大な仮想の球の一部を取り出したものである。構造ブレースおよび周辺の広場は球心に向かう角度をもつように計画されている。また、広場には球心に向かう放射線と同心円のパターンの投影が自然石によって表現されているが、これは建物内部の床にも表されている。すなわち、この仮想の球はビーコンプラザをはじめ公園を中心に点在する各種公共施設をすっぽりと覆うひとつのグローブ (球体、地球) を想定しており , 別府市の活性化の中心として , またコンベンション都市の新しい核としての役割を担っている。

11/27
[Sun]

大分県立図書館

磯崎新アトリエ

竣工年
1995 年
住所
大分県大分市大字駄原 587 番地の 1

新旧大分県立図書館

大分県立図書館は、旧大分県立図書館の建物が手狭になったことに伴い、大分市王子町の旧国立大分病院の跡地に建設され、1995 年 2 月に開館した。施設は、大分県立先哲資料館や大分県公文書館とともに、大分県大分市出身の建築家磯崎新の設計による複合文化施設「豊の国情報ライブラリー」の一部となっている。蔵書数は約 110 万冊で、九州の県立図書館の中で最大の規模を誇る。

[料金]　無料
[開館時間]　9:00~20:00

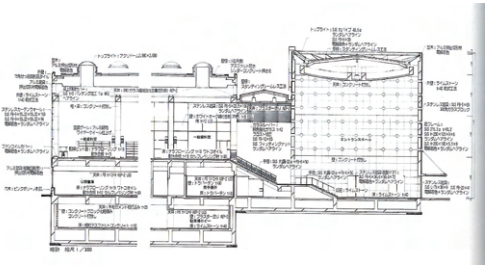
大分県立図書館 年表

1902.3.13	大分県共立教育会附属大分図書館創設
1902.5.24	大分県共立教育会事務所内に開館
1904.5	福沢記念図書館に改称
1904.10.27	教育会事務所北側に新館が開館
1921.1.9	大分県会議事堂敷地内に移転
1931.4.1	県立に移管、大分県立大分図書館に改称
1945.7.16	大分空襲により焼失
1945.8.24	金池国民学校の一部を借りて業務再開
1948.5.10	焼失した図書館跡に新築した第 1 期新館が開館
1949.3.17	第 2 期新館が開館
1966.7.1	旧県議会議事堂跡地に移転 (現アートプラザ)
1995.2.28	現在地（国立大分病院跡地）に移転するとともに、大分県立図書館に改称

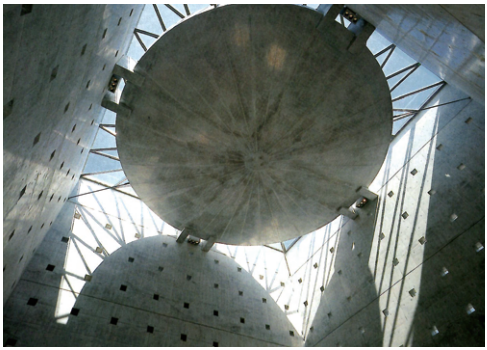
大分県立図書館の見どころ

エントランスホールの光と陰

建物に入って最初に見えるのは 15m 四方のエントランスホールの吹き抜け。天井にはコンクリートの円盤が四周の壁の各一点で溶接され、支えられている。重量感を感じさせず、宙に浮いているようだ。天井からは陽光が降り注いでおり、円盤を支える壁には四角形の開口が規則的に取られ、日の光が射す。光は壁面に陰影をつくる。



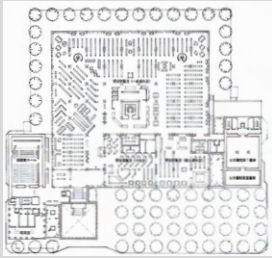
断面図



「百柱の間」

開架閲覧室は国内で最大級の 30 万冊の書籍と 300 席の閲覧席が収容できる 4,500 ㎡の一部屋。構造壁をまったくもたない一辺 7.5m の立方体フレームが 9 列 ×9 列の計 81 コマあり、外周の柱を含めると 100 本の柱をもつ一つの間である。フレームを構成している柱と梁は全てコンクリート打放し仕上げとし、その上部にガラス繊維で補強された石膏版（GRG 版）のクロスボールトの天井が連続して浮かんでいる。
この天井には規則的に 144 個のスカイライトが設けられ、制御された自然光が柔らかい光線を落とす。

開架閲覧室



2 階平面図

ブラウジングコーナー

11/27
[Sun]

竣工年
1966 年
住所
大分県大分市荷揚町 3-31

アートプラザ（旧大分県立図書館）

磯崎新アトリエ

建築学会賞受賞作品　磯崎新の代表作

アートプラザは、大分県立図書館として 1966 年 7 月に開館した。1996 年に図書館が現大分県立図書館に移転することに伴い用途変更し、現在のアートプラザに改装され市民ギャラリー等として利用されている。外観は、外部に突き出る断面正方形の中空状の梁が特徴であり、この梁は図書館が成長可能であることを示している。一方、内部空間は、外光を用いた光による演出が巧みに取り入れられており、トップライトからの光が落ちるロビーから、閲覧室にはいると一転して水平窓から光が差し込む空間が現れる。

[料金]　無料
[開館時間]　9：00〜22：00※磯崎新建築展示室は〜18：00

アートプラザの見どころ

初期の代表作を構成するコンセプトと光

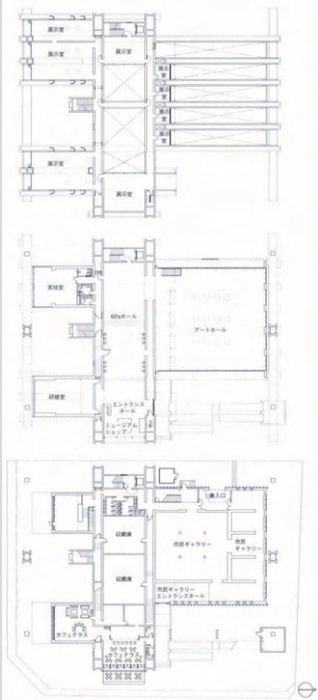
旧大分県立図書館を設計するにあたって磯崎新は「プロセス・プランニング論」を提唱した。時が経つにつれ蔵書が増えていくという図書館の性質に対応するために、図書館の機能の変化に対応し成長していく建築を考案。その象徴が、ボックスビームと呼ばれる梁の断面。

断面図

アートプラザ 3 階にある磯崎新建築展示室では、磯崎新が手掛けた建築の模型や資料が展示されている。

経年変化を計画段階から想定して設計。図書館からアートプラザへと用途が変化した現在も色褪せることなく存在している。

ロビーでは天窓から光が「上から下」に落ち、観覧室では水平窓から「横」に光が差し込む。ただ光を取り込むだけではなく、あらゆる角度から取り込まれた光が室内を彩る。



11/27
[Sun]

大分県立美術館

竣工年
2014 年
住所
大分県大分市寿町 2-1

街に開かれた縁側としての美術館

一般的に美術館というとブラックボックスで、中で何が行われているかは入ってみないとわからないことが多い。そのため、本当はもっと多くの人が楽しめる場所であるのに、その機会を失ってしまっている。あまり美術館に行かない人たちをいかに引き寄せるか、そして美術を楽しんでもらい、日常的に人々が集まるそのような仕掛けを建築として与えた

[料金]　300 円
[開館時間]　10：00 ～ 19：00

大分県立美術館の見どころ

街と一体化した美術館

アトリウムの道路側は南側のファサードを全面、開閉可能なガラス水平折戸としている。ガラス水平折戸を開けるとアトリウムは、人々が自由に行き来できるパブリックスペース＝縁側となる。ガラスは視覚的なつながりを生むが、実際には壁として存在してしまう。その壁を取り払うことで、美術館は街と一体化した施設となる。また、前面道路を歩行者天国とすると、美術館だけでなく、向かいの iichiko 文化センターとも一体的なイベントも開催でき、2 つの文化施設を中心に街に活気を生み出す

木格子の屋根の系譜

坂茂建築の特徴のひとつに、木格子の屋根がある。ここ、大分県立美術館においても使われているのだが、私はこの屋根のかけ方、屋根と壁の関係が、非常にオランダの H.P. ベルラーへの代表作である、アムステルダム株式取引所に似ているなと感じる。それ以外にも、坂茂の建築には多様な読み取りができる建築家であるように感じ、それに対して活発な議論ができることを望む。

ポンピドゥーセンター・メス

大分県立美術館　展示室

11/27
[Sun]

竣工年
1974 年
住所
大分県大分市横瀬 1473

富士見カントリークラブ

磯崎新

〈円筒〉および〈半円筒〉にかかわる個人的な記録

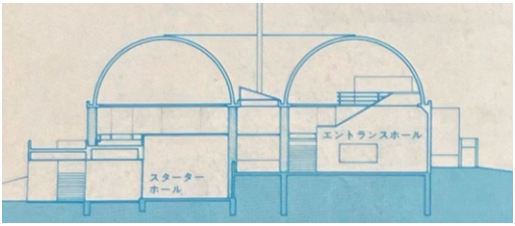
半円筒のコンクリートシェルの下端が鋼棒によって結ばれる。断面として力学的に完結したヴォールトをうねるような丘の上すれすれにはわせてやる。湾曲させられ、平面上では疑問符のような形となる。連続ヴォールトは両端部で切断され、玄関側に切断面がそのまま露出している。水平に連続した低い窓を開けて眼前の風景を眺めることが主要な目的であったので、ヴォールト部分は円柱だけで支えられて空中に浮かされている。半円筒という基本携帯を水平に連続させていく時に現れる修辞的手法のほとんどは、この建物によって読み取ることができる。

[料金]　入館料無料
[開館時間]　不明

富士見カントリークラブの見どころ

切断面の露出による開口

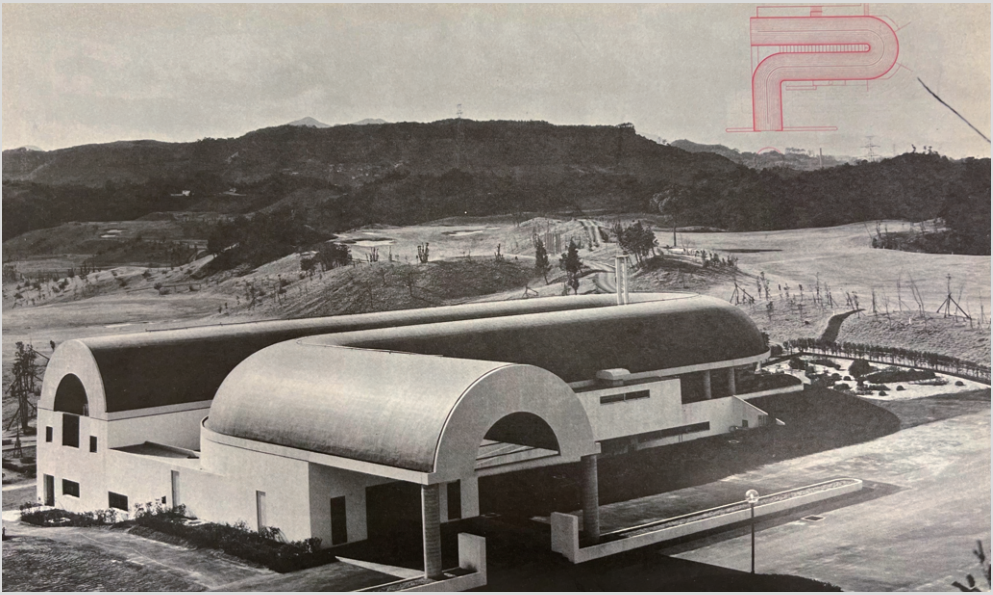
水平方向へとのびてきたヴォールトの空間を、突然停止させる。連続した開口部は端部で壁となって遮断され、半月形とふたつの正方形の窓がダークグレイに塗られた窓に開けられる。左右のふたつは通風用、中央の正方形は遠景用、そして半月形は天空だけを写す窓である。



断面図

内観

水平に引き延ばされたヴォールト



俯瞰

11/27
[Sun]

竣工年
1998 年
住所
大分市大字野津原 800

大分市野津原市民センター（旧町庁舎）

伊東豊雄

交錯点としての建築

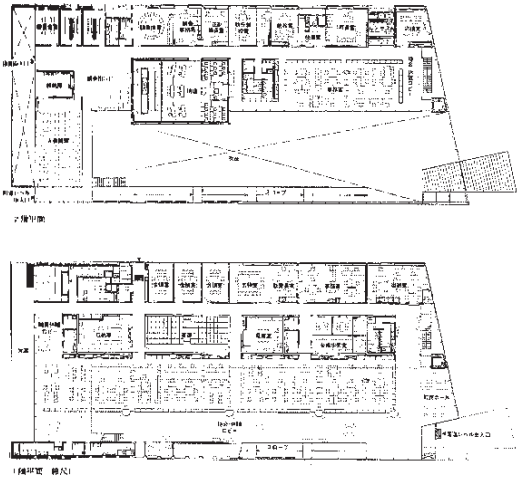
野津原は、大分市の西南に隣接する人口約 6000 人の町である。緑深い山々に囲まれ、町の中央に流れる七瀬川に沿って集落と田畑が点在している。新しい町役場は昔の宿場町であった町の中心部にある。古くから家々が並ぶ旧街道と交通量の多い国道との間にある敷地は、旧街道側が約 3 m 高くなっている。ここでの提案はこの新旧異なるふたつの道を結び合わ新しい町のシンボルとなる場を作ることであった。

[料金]　無料
[開館時間]　8:30 - 17:30

大分市野津原市民センターの見どころ

広く明るい執務空間

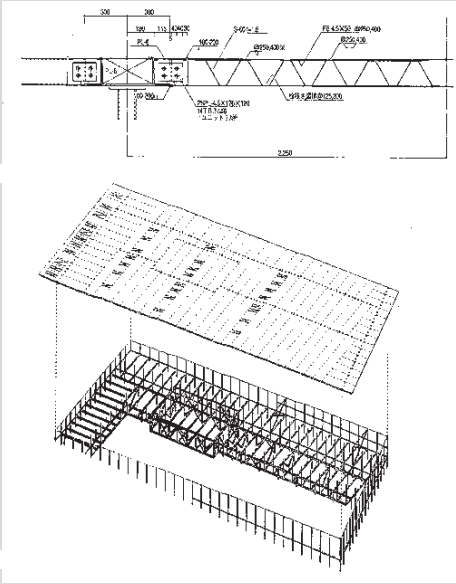
約 70m×30m の外郭を持つ庁舎の中心は執務室である。この気積大きな空間は天候や時間の移り変わりを映し、さまざまな表情を見せる。広場から連続するスロープは上下階を結び、ガラスに覆われた議場や大会議室は、吹き抜けの中に張り出すように置かれている。さまざまな場所から見通せるこの空間は来庁者にとって配置や動線が分かりやすくなっている。それによって町民が気軽に立ち寄り、職員ともコミュニケーションが取れる、開かれた場所を目指している。



構造アクソメ

構造・設備と結びついた大空間

大空間を覆うスラブは既製品の屋根折板を 4.5〜6.0mm の鉄板で挟んだ段ボール状の断面を持つパネルのユニットを工場で制作し、それを現場で接合するという方法で作られている。ここでは最大 15m のスパンを厚さ 18cm の薄いスラブで掛け渡している。そして鉄骨をトラス状に組んだ議場部分で地震や風圧などの水平力を処理することで、建物全体を均質で軽快な架構で覆うことを可能にしている。気積の大きな室の環境をコントロールするために二重床を利用した床吹き出し方式である。これに開閉式トップライトによる自然換気と採光を組み合わせランニングコストを軽減している。



構造アクソメ

11/27
[Sun]

竣工年
2005 年
住所
大分県竹田市直入町大字長湯 7676-2

ラムネ温泉館

藤森照信 + 入江雅昭 (IGA 建築計画)

「塔は好きだ。」

「温泉というビルディングタイプの特徴は、湯気抜きの塔が付くことにある。塔は好きだ。塔のてっぺんには、松がふさわしい。松は厳しい環境に強いし、いつでもどこでも緑豊かなことから、古来、東アジアでは植物の代表とされ、生命現象や長寿のシンボルとして、大切に扱われてきた。ラムネ温泉が長く栄えるようにと祈りを込めて、湯気抜きのてっぺんには松を植えることにした。」(藤森照信作品集より)
藤森の手による文章は、読む者の脳を柔らかくする。まるで温泉のような文体だと感じるのは私だけだろうか。

[料金]　大人500 円 / 小人（3 歳〜小学生）200 円 / 3 歳未満無料
[開館時間]　10:00~22:00

ラムネ温泉館の見どころ

シマウマのような外壁

外壁には焼杉を張る。< 養老昆虫館 > のときは、焼成時に生じた板の横方向のへの反りのせいで、焼杉を並べたとき、目地に大きなスキマが出てしまい、反りをノコギリで削り取るのに思わぬ手間がかかってしまった。ふつうの焼杉は長さが 2m が限度だから反りの問題はないが、< 養老昆虫館 > も < ラムネ館 > も長さ 8m の長尺だから、反りが大きく出る。反りを削り取らずに済ますには、板の間をちゃんとあけ、秋に漆喰を塗ればいい。かくして、シマウマのような板張り仕上げが生まれた。

「ラムネ温泉館」外壁

「養老昆虫館」(写真はゲストハウス部分)

相撲を取るように見る

“相撲を取るように建築を見よ” と藤森は言う。
「あまりの感動に理由を言語化できないときは自分の負け、愚作でもその理由を言語化できれば勝ち、できなければ負け。ふつうの作のとき、手がけた建築家本人も気づいていないであろうことを指摘できれば勝ち、できなければ負け。建築史家にとって建築を見るとは、つくった建築家が勝つか見る建築史家が勝つかのぶつかり稽古。」(藤森照信作品集より)
タオル一枚ふんどしに見立て、身体で感じたことを、言語化して見るのもいいかもしれない。

左 ----- 男湯の室内は、全面的に漆喰を塗り回し、一部にアコヤ貝をはめ込んでいる。アコヤ貝は温泉らしい華やかさを出すため。

11/27
[Sun]

竣工年
2018 年
住所
由布市湯布院町川北 8-5

由布市ツーリストインフォーメーションセンター

坂茂

交差ヴォールト的な木造架構

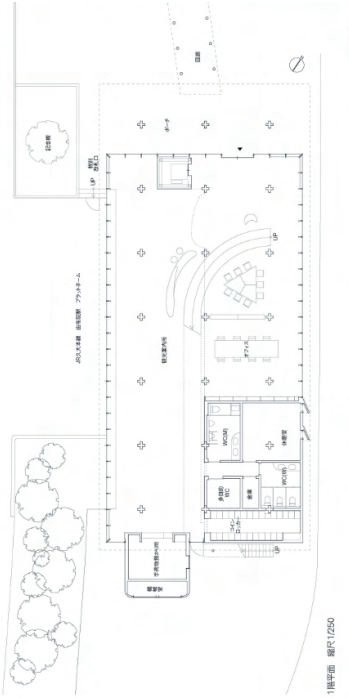
磯崎新氏設計の JR 由布院駅舎の隣に、由布市ツーリストインフォメーションセンター（YUFUiNFO）を設計した。
磯崎氏の由布院駅舎は、木造交差ヴォールトの屋根がのった中央のコンコースのタワーを中心に左右対称にウィングが広がるシンボリックな建築で、それに対する呼応が求められた。パピルスの茎を束ねたような形態の石の束ね柱（エジプト建築のパピルス柱）のようなものを木造でできないかと考え、日本で加工が可能な集成材の 2 次元加工のみで作れる二方向の Y 字型束ね柱による交差ヴォールト的空間を作れる木造架構をデザインした。

[料金]　入館料 0 円
[開館時間]　9:00~17:30

由布院ツーリストインフォメーション
センターの見どころ

木構造

4.5m 間隔に建てられた木の柱は十字の平面をしており、柱脚から頂部まで 1 本の部材となるように 12 ㎜厚のラミナを貼り合わせた湾曲集成材としている。十字柱はそのままでは運搬できないので、150×175 ㎜の 4 つの部材に分割し、現場でエポキシ注入した鉄筋で一体化している。



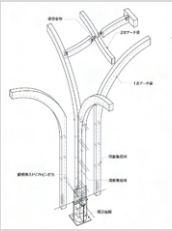
1 階平面図

建築の機能について

機能的には、観光客の急激な増加で現駅舎では乗客の待合や情報提供サービスが十分にできず、スーツケースを持った乗降客が外に溢れ出て、駅前の交通の混乱に拍車をかけていた。そこで YUFUiNFO では、1 階に待合も兼ねた九州全域の観光情報案内スペースや荷物の預け入れ機能があり、2 階の「旅の図書館」へはスロープで、周囲の景観を楽しみながらより由布岳を望める外部の展望デッキへと続く。建物は出来る限り透明にして、プラットフォームや車窓からも街が見え、街からも列車が見えるよう、単純なガラスの箱を作ることとした。

アーチ梁

柱脚は 1 階フロアレベルで基礎梁に埋め込まれた十字形の鋼板にドリフトピンで接合されており、2 階上部から 4 つに分かれてアーチを構成する梁に変化していく。柱から分かれたアーチ梁を 1 次アーチと呼び、それに直交するアーチ梁を 2 次アーチ梁と呼んで、納まりの検討を行った。アーチ頂部には棟梁に相当する梁を配置し、その上に斜めに配置された垂木と 24 ㎜の合板を張り、水平剛性を確保している。



納まり

11/27
[Sun]

由布院駅舎

磯崎新アトリエ

竣工年
1990 年
住所
大分県由布市湯布院町川北 8－2

礼拝堂的駅舎

由布院駅は、大分県由布市湯布院町川北にある九州旅客鉄道久大本線の駅である。木造で黒塗りの外観を持ち、中央部は高さ 12m の吹き抜けのあるコンコースで、隣接して観光客と地元文化の交流を目指したイベントホールを兼ねた待合室が配置され、改札口がない構造となっている。コンコースとホームは風を防ぐ大型で厚いガラス扉で仕切ることができ、待合室には温泉水を利用した床暖房の設備がある。また、1番のりばの日田方向のホーム端には足湯がある。待ち時間の活用を考慮したデザインを体験してほしい。

[料金]　無料
[開館時間]　－

由布院駅舎の見どころ

建築の形式 - 布置（パルティ） -

布置とは、田園的な状況において建築をランドスケープの中に配置構成する方法として彼の中で位置付けられる。都市的な状況とは異なり、たいして限定するもののない田園的な状況での設計過程（ハラミュージアムアーク）で洗練された考えを、より公共的な空間である駅舎に再使用している。「文脈のない場所に独自の秩序を保証するのに役立ってくれる」と彼は言う。

架構

弓形の集成材とテンションバーの組み合わせによる屋根の構成は、磯崎新がハラミュージアムアークでつくりだした建築言語のひとつであり、ここではオープンで自由度の高いイベントホールを実現するために再度使用されている。

木造建築 - 和風忌避 -

彼の問題意識は建築の形式にあるのであり、日本的デザインではない。建築が木から成っている事実が重要であるのだろう。

11/27
[Sun]

竣工年
1988 年
住所
熊本県阿蘇郡小国町北里 371-1

木魂館

桂　英昭

町民と生活の文化を育む拠点

熊本県小国町では、郷土が生んだ世界的細菌学者・北里柴三郎博士が提唱し、実践した「学習と交流」の精神に則り、1986 年より「学びやの里構想」を掲げ、町民の生活と文化を育む拠点として、また、ひとづくりの場として施設の整備を図る。
1987 年、北里研究所・北里大学の協力を得て、博士の遺志と偉業を伝える為に、「北里文庫」と「貴賓館」ならびに生家の一部を「北里柴三郎記念館」として再生。1988 年、学習と交流を図ることを目的に研修宿泊施設「木魂館」とグランド等を建設。

[料金]　素泊 3300 円円
[開館時間]　8:30 ～ 17:30

木魂館の見どころ

伝統的構法から着想を得た工法

木魂館の独特の建物形状は、小国特有の伝統構法「置き屋根」をヒントに、箱型に組んだ杉の角材で屋根を支える「ボックス梁」構法によるもの。

エントランス天井

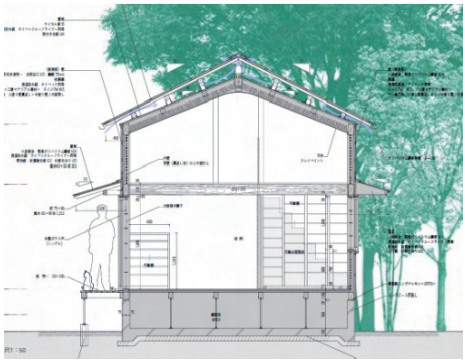
置き屋根

置き屋根とは屋根を二重に葺く (屋根をダブルスキンとする) 工法のひとつ。
伝統的工法で日本各地で見ることができる。形状から想像すればすぐ解ることだが、台風や強風の影響を受ける太平洋沿岸地域にはない。中部地方の山間部から日本海側にかけて良く見かける。。しかしながら研究調査や文献が極めて少ないので全貌はわからない。主に倉に採用されている。住まいで採用されていることはあまりない。それにはいくつかの推測が成り立つ。

1　倉は内部の容積をできるだけ確保するため小屋裏空間がないものが標準的。したがって外気の影響をすこしでも緩和するために置き屋根とした。

2　倉は火災から守る為土蔵とするものが多いが、屋根面にも火災対策として土を葺く場合は工法上、後付け消耗パーツとしての屋根として置き屋根とした。

3　夏場の暑さ対策のみならず、寒い地域では冬場の氷柱対策としても効果的等々が考えられる。



11/28
[Mon]

旧西里小学校

木島安史

竣工年
1991 年
住所
熊本県阿蘇郡小国町大字西里 972

「宇宙船阿蘇小国号」

世界的建築家フラーの思想を受け継ぐ建物が小国町西里、この小さな山間の集落にある。1991 年に建築された旧西里小学校校舎は、建物中央に正三角形の集合体である 56 面体ドームを有しており、このドームこそフラーの思想を具現化したものであり、「山村の子どもたちに、自分たちが宇宙の中心だと感じて欲しい」という思いが込められている

[料金]
[開館時間]

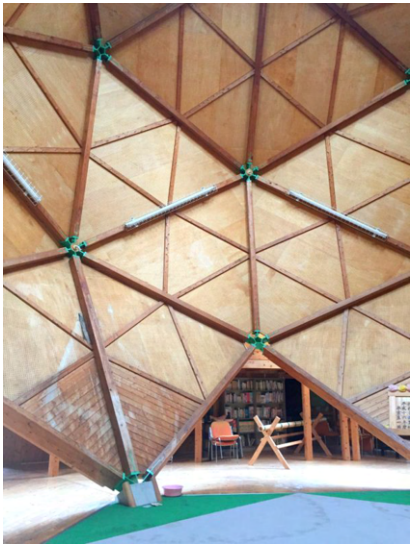
旧西里小学校の見どころ

日本的集落とフラードームの融合

小さなむらの中にある、小さな宇宙。そのまわりを取り囲む小さな集落のような教室群。

「宇宙船地球号には「取扱説明書」がついていない。人類自らの「知性」により、自然や宇宙の取り扱い方法を学び、「操縦マニュアル」を確立する必要がある。そのためになすべきことは、専門家知性を総合的に総括し、全体を考えることが重要だ。」

（フラー）



ESD の推進拠点に向けて

SDGs 未来都市である小国町では、SDGs 推進の柱の一つに、次世代の社会、持続可能な社会創りを担う人材の育成「ESD 教育」を掲げている。そしてこの ESD 推進の拠点、シンボルとして、フラーの残したこの建物を利活用し、未来を担う子どもたちの生きる力、生きるともし火を灯す活動を行っていく。

11/28
[Mon]

小国ドーム

葉 祥栄

竣工年
1988 年
住所
熊本県阿蘇郡小国町宮原 124-1

戦後の大規模木造建築のパイオニア

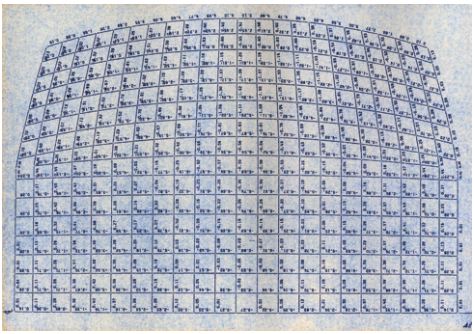
グレッグ・リンは、2013 年にカナダ建築センター（CCA）で開催した展覧会「デジタルの考古学」において葉祥栄をデジタル・デザインの先駆者として紹介した。葉は小国ドームがコンピュテーションに関わった最初のプロジェクトであったと述べている。日本では、小国ドームは大規模木造建築のパイオニア的な作品として認識されており、1989 年には「小国町における一連の木造建築」の主要作品として日本建築学会賞を受賞し、2019 年には「地元産の杉の間伐材を用いて開発された先駆的な木造立体トラス」と評されて JIA25 周年賞を受賞している。小国ドームは現代的な木造技術とコンピュテーションを組み合わせた先駆例であると同時に、長年に渡ってその魅力を保ち続けた成功例と考えられる。

[料金]　無料
[開館時間]　9:00~22:00

小国ドームの見どころ

木造技術とコンピュテーショナル・デザインの原点

諸々の木造技術とデジタル技術が高度化した今日、両者を具現化した建築や空間インスタレーションが日々世間をにぎわせている。しかし両者は「技術」である以上、自己目的化し、マニエリスムに陥る危険性をはらんでいる。これらが隆盛を誇る今こそ、原点を見つめる必要があるのではないか。



間伐材の利用

当時、小国町には宮崎暢俊さんという30代の町長がいて、国鉄宮原線の廃止という大問題を抱えていた。昔は川で材木を運んで、海で貯木していた。それを列車に変えようとしたのだが、トラック輸送が主流となり、列車は利用が少なく赤字になり、小国の手前で鉄道をストップすることになった。現地での一番の問題は間伐材の利用がないことでそれは致命的な林業の衰退をもたらす。宮崎さんは間伐材を使って側溝の蓋を作っていたが、それしか使い道がなく、町は間伐材の利用について頭を悩ましていた。したがって、間伐材は選んだわけではない。建築家にとって、与えられたミッションだったのだ。（葉 祥栄）

ボルト接合のディテール

木はファイバーそのもの。ファイバーは引っ張りに強いけれど、それを繋ぐものが大切。何度も実験が行われ、締め付け面がそれほど大きくなくて良いことがわかり、大きな角ワッシャーを採用する予定だったところが丸ワッシャーになり、ピン接合となったことで、ボルトが隠れて接合部のディテールが洗練された。

11/28
[Mon]

孤風院（木島安史自邸）

木島安史

竣工年
1975 年
住所
熊本県阿蘇郡阿蘇町

姿を変え受け継がれ続ける木造建築

1908 年に熊本高等工業学校（現在の熊本大学工学部）が開校した際、その講堂として建てられた。1974 年に取り壊しが決定した際、建築家 木島安史が、英語で棺桶、仏語で玉手箱を意味するコフィン（coffin）から名付けた”孤風院”として生まれ変わる。講堂のような大きな建物の敷地は予算的にも熊本市内には見つからず、阿蘇の山奥に住居兼アトリエとしてリノベーションさせたものが現在の姿として残っている。1992 年、木島氏がなくなって以来、「孤風院の会」が遺志を受け継ぎながら、孤風院を使いながら手を加えている。

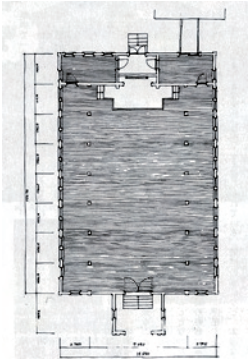
[料金]　不明
[開館時間]　不明

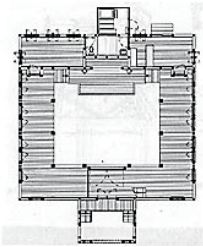
孤風院の見どころ

大胆に変更された平面

単なる移築ではなく、バシリカ式の長方形プランから正方形の集中式に近いものに、講堂の頃は見られなかった中央の広間を囲む回廊式が取り入れられる。講堂から住宅にするにあたって、不必要なものは取り除き、使える材料のみで行なった素直なリノベーション。玄関上部には 2 階が作られ、書斎、子供部屋として活用されてきた。玄関と反対側の間取りは、寝室、洗面・便所、食堂に用途変更し、風呂が付け加えられている。外部のペンキ塗りなどは自分で行い、79 年頃にはほぼ現在の形になった。

解体前外観





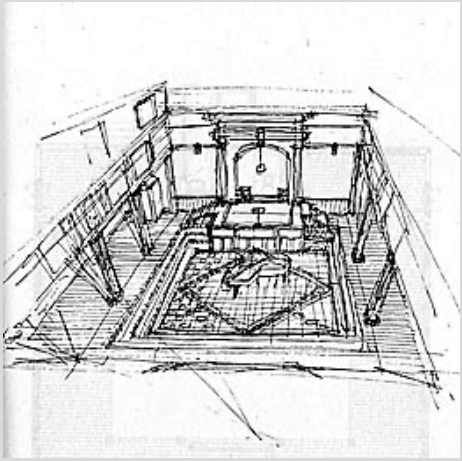
左：解体前平面
右：現在平面図

木島安史とは

1962 年早稲田大学理工学部建築学科卒業。1962 年からトロハ研究所。1966 年早稲田大学大学院修了。丹下健三都市建築設計研究所入所。その後、大学教員を経て、球磨村森林組合球泉洞森林館や瀬戸大橋記念博覧会空海ドーム、熊本県立東稜高校などを手掛け、村野藤吾賞を受賞した。

設計概要

●所在地：熊本県阿蘇郡阿蘇町●用途：個人住宅（以前は大学の講堂）●構造：木造・規模：地上 2 階●敷地面積：957 ㎡・建築面積：193.5 ㎡●延床面積：219.35 ㎡●竣工年：1975 年（既存 :1908 年（明治 41 年））●設計：木島安史 ●施工 : 水上建設



木島が描いた孤風院の内部スケッチ。このスケッチをもとに、孤風院の会によって床は仕上げられた。

11/28
[Mon]

熊本県立農業大学校学生寮

藤森照信＋入江雅昭＋柴田真秀＋西山英夫

竣工年
2000 年
住所
合志市栄 3803

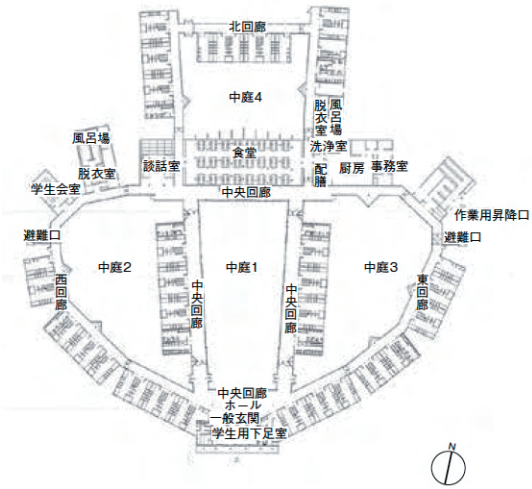
「共同性」をテーマにした学生寮

建物は県産材をふんだんに使ったスケールの大きな木造建築。また、壁や天井にも有明海の貝灰や阿蘇の火山灰土を使うなど、将来は農業に従事する学生たちが暮らす場にふさわしく自然との共生を感じさせるものとなっている。学生たちにとって生涯最後の共同の場となるこの寮において、「共同性」の濃い配置計画として中庭・回廊式が採用された。
「熊本の木を使う」という県の方針があったため、杉・桧・赤松・栗の 4 種が適材適所で使われている。4 人の建築家がプロジェクトを組み「学生たちの誇りとなる建物を」という思いでつくりあげた作品である。

熊本県立農業大学校学生寮の見どころ

配置計画について

草（芝）、木（カンキツ類）、石（白砂）、花（野菜花）をテーマとした 4 つの中庭の周りに、全長 400 メートルの回廊が巡り、200 人 100 室の寮室が囲む。



平面図

内部について

玄関ホール

木材の表面仕上げは、自然素材ならではの非均質性を生かすため、曲面カンナという珍しいカンナを振るい、より凹凸の付くよう、ヒビ割れや節が目立つようになっている。

玄関ホール

食堂

太鼓落としという、丸太の対向する２面を削った赤松を林立させ、さらに独立柱を強調するため、梁は天井裏に隠されている。

内部は、壁から天井まで、有明海産の貝殻を焼いて作った貝灰（漆喰）を塗り回し、また一部には敷地から掘り出した阿蘇の火山灰土を使っている。
木材も漆喰も土も、すべて阿蘇の恵みである。

食堂

11/28
[Mon]

竣工年
2017 年
住所
熊本県菊池郡菊陽町大字戸次 1698

熊本県総合防災航空センター

小川次郎／アトリエ・シムサ＋ライト設計

九州における広域防災拠点

防災消防航空センターと警察航空隊基地が合築された九州における広域防災拠点。消防・県警両施設とも、ヘリコプター格納庫を中心に、その周囲に 資材庫や事務室を配置し、日常時におけるヘリ整備や事務作業、また 災害時における緊急出動の効率化に配慮。さらに、両施設間にブリーフィングルーム (大会議室) を設け、大規模災害時の消防、県警 及び各防災機関の支援ヘリの一体的な施設運用を可能としている。

九州における災害時の拠点として活用されるだけでなく、県産木材の利用拡大を先導する建物となることが期待される。

[料金]　無料
[開館時間]　~

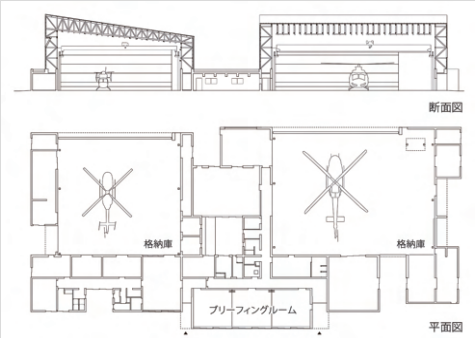
熊本県総合防災航空センターの見どころ

木造大屋根架構

格納庫およびブリーフィングルーム上部は 120mm 角程度の流通材と既成接合金物を用いた木造で、トラスで構成されている。接合部は木材の支圧とボルトによる接合方法を採用することで製品金物を用いずに 20m のスパンを実現。斜材の間には三角形の楔のような補助材を配置し断面欠損を防止すると同時に、ボルトを引く際に弦材の材軸方向の指圧面を押し込む力が働く接合方法としている。また、格納庫下部を鉄筋コンクリート造とし、ブリーフィングルームとそれ以外の部分を耐火構造壁＋特定防火設備により平面区画することで、小径部材による大規模木造建築を可能にしている。

〈ヒトの巣／ヘリの巣〉

この建築はヘリコプター格納庫である一方で、ヘリの整備や飛行という緊張の強いられる作業に関わるヒトが、長時間活動する。テクノロジーに基づく巨大で無機質な精密機械と、小さく繊細な身体による有機体、この二つの異なる性質を結びつけるマテリアルとして、４寸角の木材を採用。



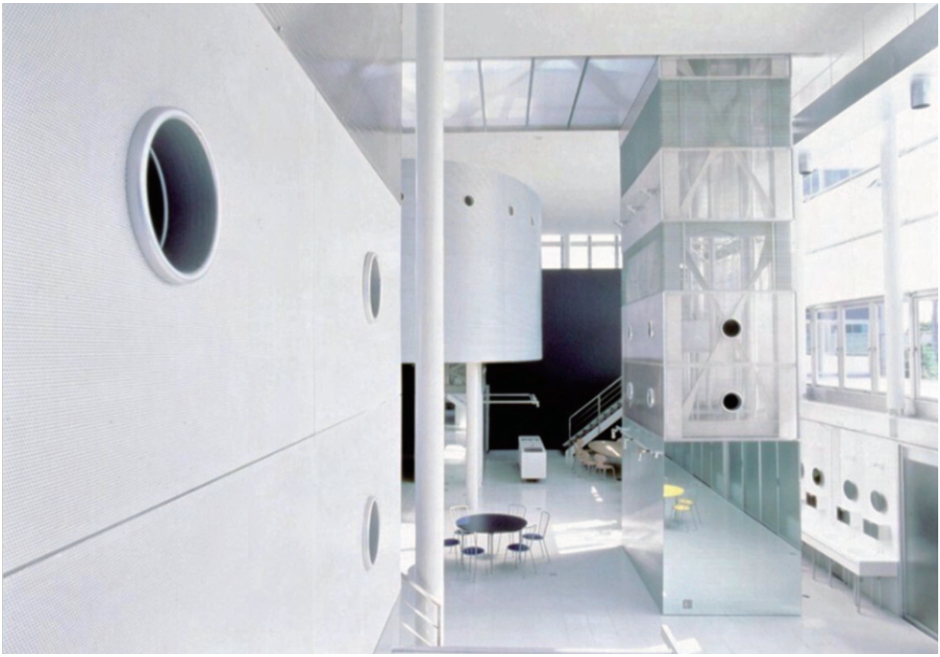
４寸角材は人の身体となじみの良いケールや柔らかな肌触り、穏やかな香りを発する性質を持つ。こうした材料で建築全体を覆い、ものと人のスケールや存在感、感覚を調停することで、両者の空間的な共存を意図している。「防災」という重要かつ困難な任務に関わる隊員の方々にとって、天然木を多用した空間が親しみのもてる、穏やかな空気に満ちた場となることを期待。

11/28
[Mon]

再春館製薬女子寮

妹島和世

竣工年
1991 年
住所
熊本県熊本市中央区帯山４丁目２０−５



新入社員が会社での最初の一年間を過ごすための建物

80 人の女子新入社員が、研修を重ねながら 1 年間共同生活をする場所で、企業の寮でありながら学ぶ場所でもあり、80 人が一緒に暮らす、いわば大きな家のようなもの。一般的に会社の寮はワンルームマンションのような形態が多かったため、この機会に、80 人一緒だから経験できる、ワンルームマンションでは絶対に経験できないスペース、80 人で心地よく一緒にいながら、一人でも居心地良くいられる空間とはどんなものが良いのか考えた。どんな場所であれば「仕事」と「一緒に暮らす」ということができるのか、それが私たちが一番考えたことである。

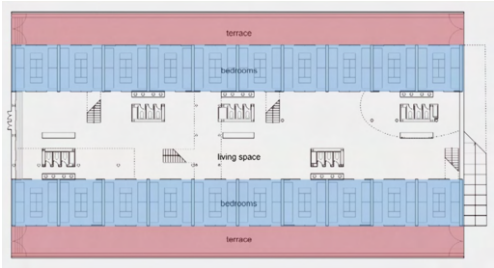
[料金]　　無料
[開館時間]

再春館製薬女子寮の見どころ

公園のような自由さを持つ場所

「四人部屋のベッドルームが並んでいて、その上がいくつかの部屋になっています。私が考えたことは、八十人が一年間共同生活しなければならないなら、その一人一人が自分の好きなように空間を組み立てて生活していけるようにすることでした。ベッドルームが小さくても、その他のスペースを個人が好きなように組み立てて生活できるようなプランをつくろうとしました。」

リビングの床をコンクリートブロックにしたところ「ラフすぎる」との注文がついた。そこで急遽白い塗装をしたら明るい空間となった。偶然だが、そこから白い空間の表現が始まった。



1 階平面図

両側にテラスがあり、そのテラスに向かって寝室をとる。そこが 4 人部屋でコンパクトになっている代わりに、真ん中の大きな通りをみんなのリビングルームと設定している。光と風が入る半屋外のような明るく大きな空間で、みんなで集まることもみんなから離れることもできる。室内空間としてプレッシャーがなく、思い思いのくつろぎかたができる。

内部構成

室内空間は約 18m×45m で、5 本の塔で第空間を構造的に支えている。塔の 1 階部分にはトイレ、上部は第空間のための空調・換気・旧排水等の設備が収められている。床のレベルは、外の地面から 40cm 掘り下げ、落ち着ける空間としている。

外観

内部空間の組み立て方がそのまま外観としても現れている。外からの視線を考慮し、見られては困る場所に半透明フィルムを貼っている。突きあたりはガラスと金属スクリーンで、外からは見えないが内側からは外の通りが見えるようになっている。

11/28
[Mon]

熊本駅

安藤忠雄

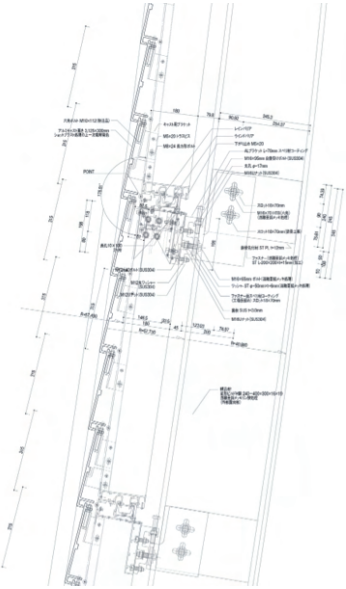
竣工年
2019 年
住所
熊本県熊本市西区春日 3 丁目 15

「森の都」の玄関口

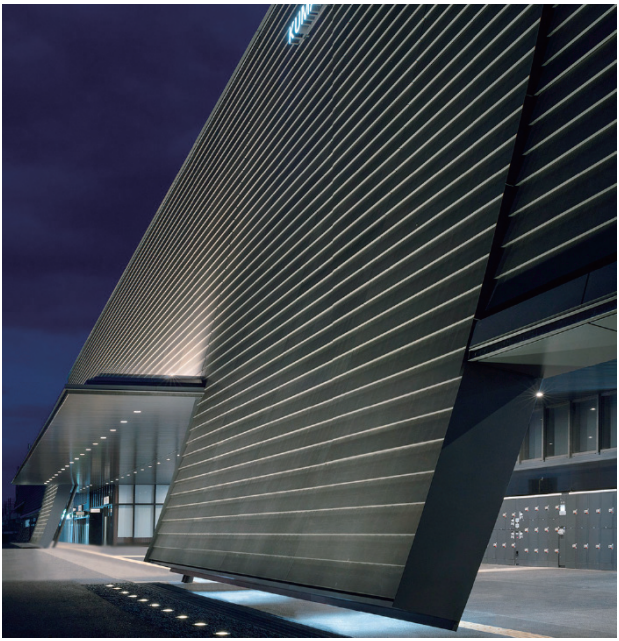
JR 熊本駅において、在来線の連続立体交差事業の一環として実現した新駅舎である。新駅舎を特徴付けるのは、白川口に面するファサードとホーム上屋を形づくる屋根である。高さ約 14m、延長約 240m のファサードは、熊本城の「武者返し」と呼ばれる石垣の反りをモチーフとしたデザインで、上部にいくに従い勾配が徐々に垂直になっていく緩やかな曲線で、駅を訪れる人々を迎える。繊細なカーブを実現するために、面材は高さ 300mm× 幅 3,125mm のアルミキャストパネルの下見ばりとし、瓦の色合い、質感をイメージして仕上げられている。

[料金]　運賃による
[開館時間]　始発〜終電

熊本駅の見どころ



断面詳細図



外観夜景

ホーム上屋

熊本は、日本近代文学の祖、夏目漱石が、鏡子夫人と結婚した前後の 5 年間を過ごした場所として知られる。漱石は、鬱蒼とした緑の繁るかつての城下町の風景、その背後のひょうびょうとした山並みに目を向け、「熊本は森の都だ」と嘆声を発したという。新しい駅舎は、その「森の都」の記憶を踏襲するものでありたいと考え、木素材にこだわった。ホーム上屋全体で、合計 3,000 ㎥を超える木材を用いているが、特に、垂木など、利用者の目に近いところにある二次部材には、熊本県産のアカマツやスギを使っている。「森の都」にふさわしい、熊本の新しい「顔」として、息づいていけばと思う。

安藤忠雄 新建築 2021 年 9 月号

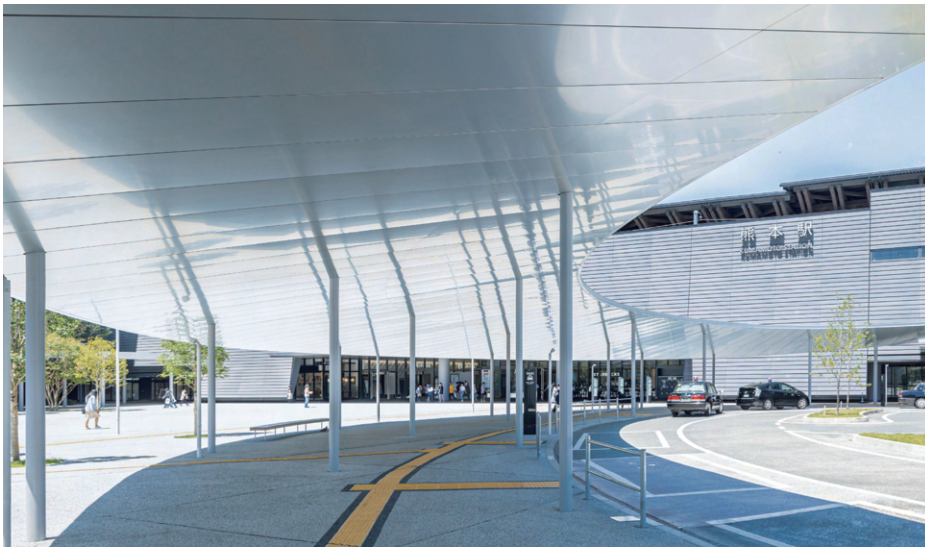
ホーム

11/28
[Mon]

熊本駅白川口駅前広場

西沢立衛

竣工年
2021 年
住所
熊本県熊本市西区



都市スケールがもつおおらかさ

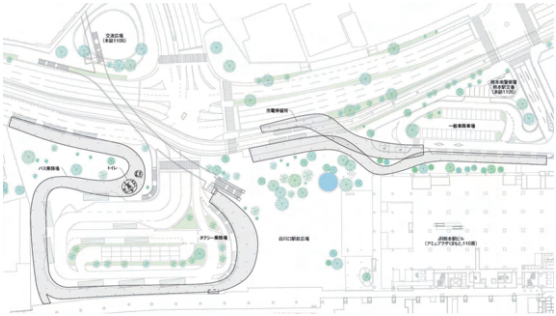
熊本駅の東側に位置する白川口の駅前広場の計画である。
熊本県と熊本市は，2005 年より基本計画を策定し、駅前周辺地域を含めた整備の基本概念や計画、調整，実行のプラットフォームとして，熊本駅周辺地域都市空間デザインを設置している。
この駅前広場の計画は，2 段階の整備となっていて、2011 年時の計画（熊本駅東口駅前広場 暫定形）に対し，今回，新たな広場計画を行った。JR 鹿児島本線等連続立体交差事業に合わせて，在来線駅舎は大きくセットバックして整備されたことで、白川口の広場は、暫定計画で整備されたエリアよりも倍ほど大きくなった。

現在の駅前広場について

熊本駅東口駅前広場 暫定形の後，2016 年熊本地震を受け，駅前広場計画に防災機能強化の検討がなされ，再整備された。

人びとの動線や交通機能に沿って200mm 厚の屋根が架かる。

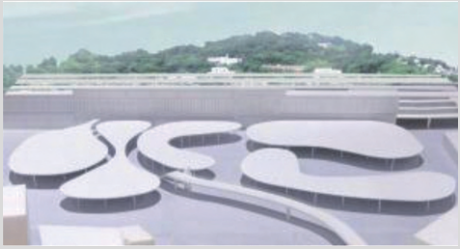
日陰や雨除け空間としての機能を持ち，待合，休憩などに利用できる熊本の隣の玄関口として，訪れた人びとが開放的で明るく，緑豊かな熊本のイメージを感じられる公園のような駅前広場といったものを共通のイメージとした。



熊本駅東口広場暫定形について

くまもとアートポリスのプロジェクトとして計画された熊本駅東口駅暫定形は、2018 年の新駅舎建替事業に伴って駅前広場が拡大し、完成形となるはずであったが、新たに再整備され解体されることとなった。
具体的な提案は、薄く軽やかな雲形の屋根を複数浮かべるというもので、暫定形でまずひとつ屋根がつくられ、完成形においてさらにいくつかの屋根がつくられるというものである。

右の図は 2007 年 11 月、熊本駅東口駅前広場の公募型プロポーザルで西沢立衛氏が設計者として選ばれたときの完成イメージ案で、左から 2 つ目の真中より下部分が暫定形として建設された。



完成形イメージ案

11/29
[Tue]

熊本新幹線口

佐藤光彦

竣工年
2011 年
住所
熊本県熊本市西区春日３丁目　熊本駅新幹線口（西口）

半屋外の公園のような駅前広場

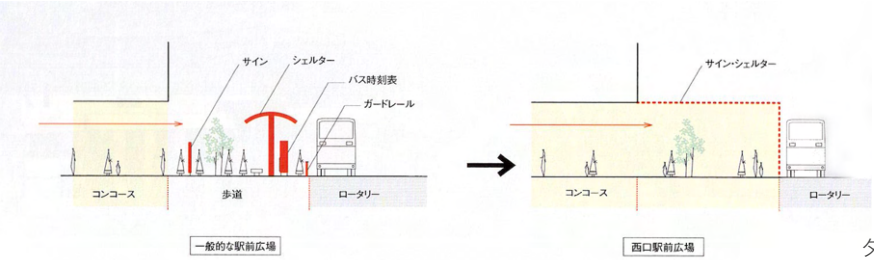
大きな穴のあいたスクリーンとルーフで覆われた半屋外の公園のような駅前広場によって、駅と街の間をゆるやかにつなぐ。サインやシェルターなどの全ての要素を兼ね備えたシンプルな壁と屋根によって、コンコースの延長された広場とロータリーの２つに再構成する提案。ロータリーの縁に設ける壁と、歩行動線や乗降場を覆う屋根によってコンコースから連続した空間を成立させ、日常生活の玄関口としての西口広場を、安らぎと賑わいのある公園のような空間とし、緑豊かで安全・安心な出会いと交流の場を創出している。

[料金]　無料
[開館時間]　終日

熊本新幹線口の見どころ

駅前広場の再考

一般的な駅前広場では、サインやシェルターなどが個別にデザインされ、それぞれ配置されるが、駅前広場に求められる機能をスクリーンと屋根に集約している。人と車の領域は緩やかに分断され、穴の空いたスクリーンとルーフに囲まれた半屋外の公園のような落ち着いた場所が出来上がっている。天井を支える鉄骨柱はφ165.2mm。天井高さは駅舎側でピロティと同じ 4,500mm、敷地は西側に向かって少し傾斜しており、ロータリー入口付近での天井高さは約5,500mm となる。



ダイアグラム

街と駅をつなぐ屋根と壁

熊本城の長壁をイメージした車道側のスクリーンは周囲の風景をまとめるデザインとなっており、スクリーン内外の茶・白の色彩計画に注目。

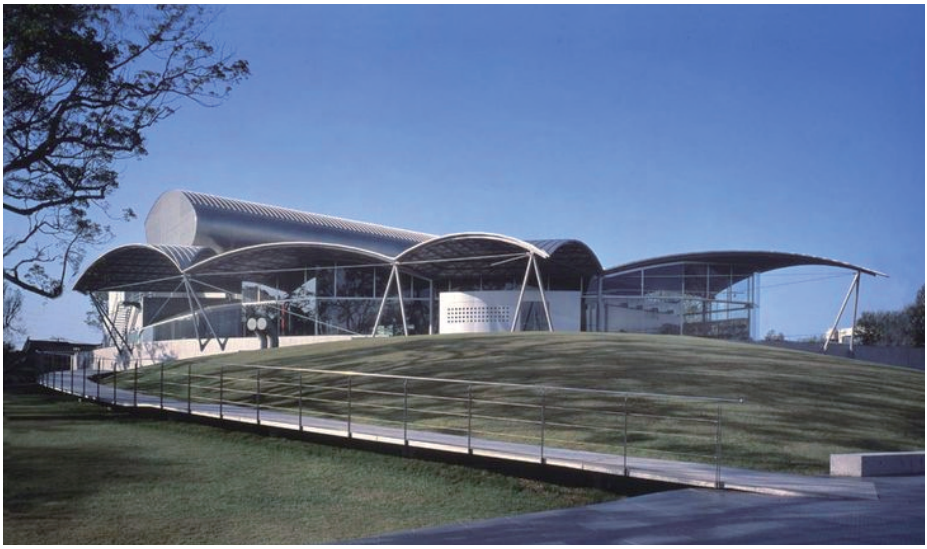
西の万日山より

11/29
[Tus]

竣工年
1991 年
住所
熊本県八代市西松江城町 12-35

八代市立博物館・未来の森ミュージアム

伊東豊雄



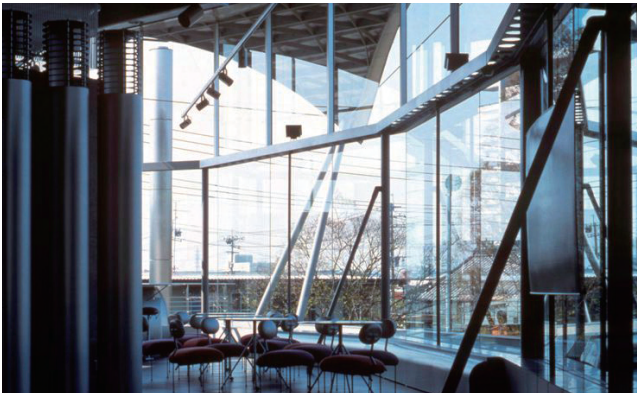
人工の丘に浮かぶ屋根

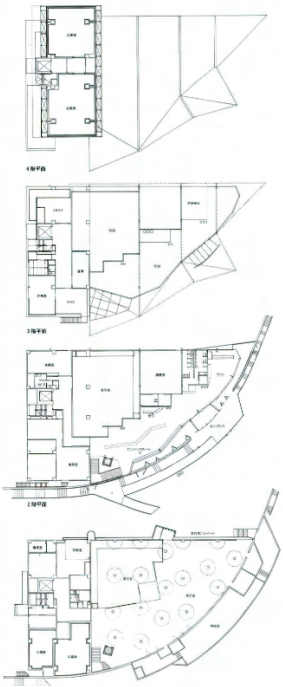
エントランスホール、カフェといった開放的で明るいスペースが、豊かな緑の真ん中に設定された。その上空には、スチールのフレームワークをステンレスシートで覆ったメタリックな屋根が浮かんでいる。それは、八代の星空のように、あるいは穏やかな球磨川の流れのように広がり、穏やかなリズムをもったさわやかなイメージのスペースをつくり出している。さらにこのスペースは人工地盤の上に載せられ、周囲の地盤面と連続的につながれたまま 5mほど持ち上げられた。干拓による人工の平坦さの中に芝生で包まれた人工の丘がつくられ、八代の街の均質な環境の中に僅かな動きがつくられた。

[料金]　入館料 310 円 (200 円)
[開館時間]　9:00~17:00

八代市立博物館・未来の森ミュージアムの見どころ

博物館の設計作業は、この第一印象（八代の街の特徴）を建築の状態に置き換える作業であったように思われる。そのプロセスは、建築のもつ都市的な問題について考えることと相似的な関係にあったように思える。

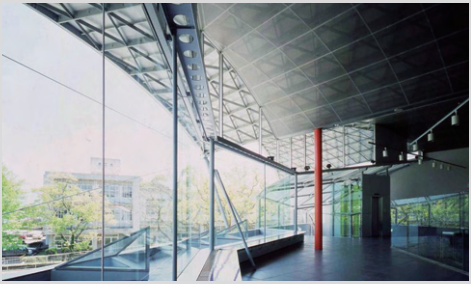




平面図

未来の正倉院

博物館のもっとも重要なスペースのひとつである収蔵庫は、博物館の機能の象徴ともいえる。収蔵庫もヴォリュームの大きい閉鎖的なスペースであるため、その扱いにはもっとも苦慮し最後まで検討が重ねられた。最終的には建物のもっとも高い部分に浮かべられ、雨、風、直射日光などの気象条件による影響を軽減するために、RC 造の外周はステンレスパンチングやアルミルーバーで覆われた。未来の正倉院である。建物の近くからは、エントランスホールの上に浮かぶ屋根と連続的につながっている断片のように見え、少し離れてみれば、博物館の象徴として、八代の宇宙船のように空に浮かんでいるようにも見える。最後に、建物全体のプロポーションと敷地に対する建物の角度が、敷地内に残された木々の高さや位置から、ほぼ自動的に決定された。その結果、博物館は豊かな緑に囲まれることになった。



内観

11/29
[Tuse]

竣工年
2021 年
住所
熊本県八代市西松江城町１－４７

八代市民俗伝統芸能伝承館

平田晃久

保存と継承、交流促進の拠点

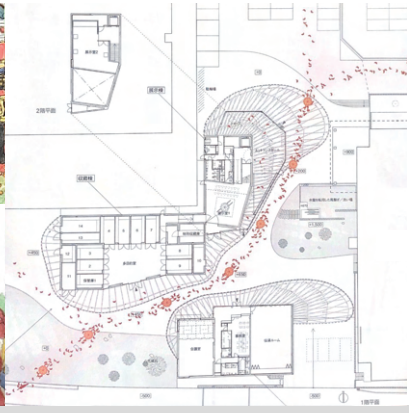
本館の別名は「お祭りでんでん館」、八代城址公園もほど近い敷地に建ち、延床約二〇〇〇平米の民俗伝統芸能伝承館。2016 年にユネスコ無形文化遺産に登録された国指定重要無形民俗文化財「八代妙見祭の神幸行事」（八代妙見祭）をはじめ、地域の無形民俗文化財の保存継承、交流促進の拠点として計画された。地元に伝わるお祭り文化を継承するための展示施設と収蔵庫、さらに伝統芸能を練習したり会議したりする場所が複合している。

[料金]　大人 300 円、高校・大学生 200 円、中学生以下無料
[開館時間]　展示棟　午前 9 時〜午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
会議棟　午前 9 時〜午後 10 時
月曜休館（月曜日が祝日等の場合は翌日）

八代市民俗伝統芸能伝承館の見どころ

お祭りと日常が連続的にある「生きた道」

お祭りのための生きた道をつくる、というアイデアからスタートした。9 つの笠鉾や獅子、亀蛇といった華やかなキャラクターが行列をなして街中の道を練り歩く妙見祭にふさわしいコンセプトに考えられた。敷地は街なかの名所をつなぐ場所に位置しているため、全体を展示・収蔵棟と会議棟の 2 棟にわけ、その間を街を繋ぐ道のように設計された。



道の両側につくられた曲面的な屋根

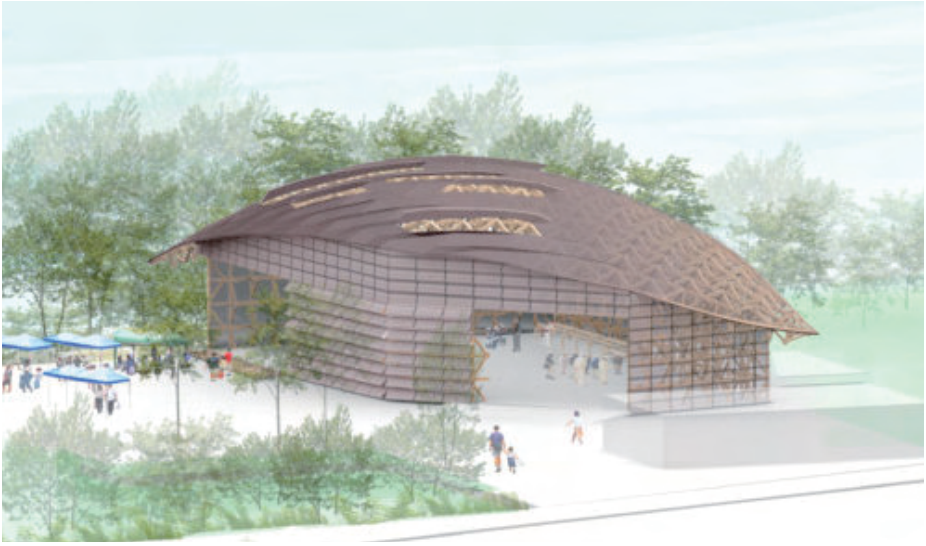
この建築の最大の特徴は、道の両側につくられた曲面的な屋根である。八代のお祭りの躍動感を、うねる屋根によって表現している。屋根架構は一部の大断面集成材を除いて、全て八代産の流通材で出来ている。短い材木を編むように組み合わせた柔らかい形状の屋根は笠鉾の木組にインスパイアされた伝統を感じされるものと同時に、現代の 3D 技術によって初めて可能になるチャレンジでもある。
軒高は屋根下で笠鉾の組み立てができるよう高く設定した。笠から発生したという笠鉾に、もう一つの笠をかけるようなイメージになっている。この神聖な存在のために設けられた屋根下空間は、同時に雨や強い日差しから守られた、快適な場所を人々に提供する。そこは日常的に使える抜け道や公園のような場所であり、マルシェなど様々な市民活動のための場所でもある。お祭りというものを日常的になんとなく感じながら過ごせる場所をつくっている。

11/29
[Tuse]

竣工年
2022 年
住所
熊本県熊本市南区城南町舞原１９５－８

エバーフィールド

小川次郎 / アトリエ・シムサ＋kaa



〈呼吸する〉木材加工場

「環境の世紀」と呼ばれる 21 世紀にふさわしい工 場建築は、どのような姿で立ち現れるかという疑問から 21 世紀の工場 “生物材料” としての木の可能性に着目した。生物材料として木を扱い、メリットやデメリットと思われる性質も材料それぞれの個性とし て捉え、適材適所に用いることで活かすことができると考えた。新しい時代の工場 / 木材加工場は、植物や生物のように場 所に根差し、地域と共存する、あたかも＜呼吸する＞ような存在となるべきと考えられた。こうした考えにたち、設計者らは＜木造レシプロカル構造＞を用いた、柔らかな佇まいを持つ木造加工場を提案した。

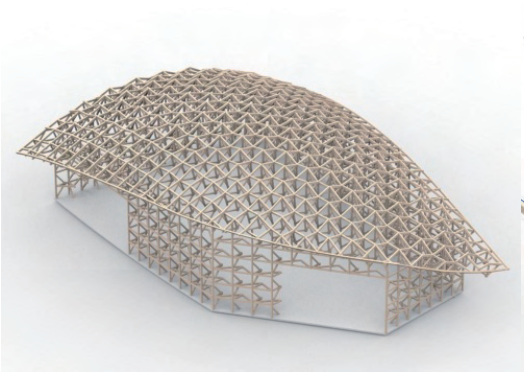
[料金]

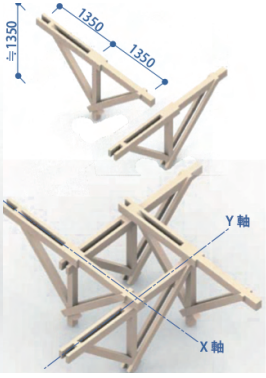
[開館時間]　　9 時～ 19 時

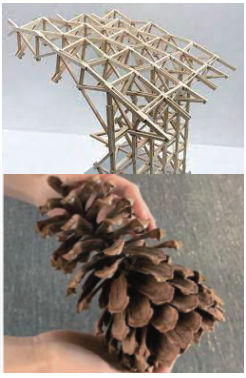
エバーフィールドの見どころ

〈レシプロカル構造〉による “松かさ” のような木造大スパン空間

・小中断面 (材幅 105mm や 120mm、材せい 240mm 位まで) の 製材が、互いにもたれかかるように支えあう〈木造レシプロカル構造〉により、約 20x30m の無柱大空間を実現
・構造的な主張が強く表れがちな、トラスや大断面集成材等による木造 大架構に対し、箇所ごとの建築計画的・環境的な条件に柔軟に対 応した、柔らかな表情の架構デザイン



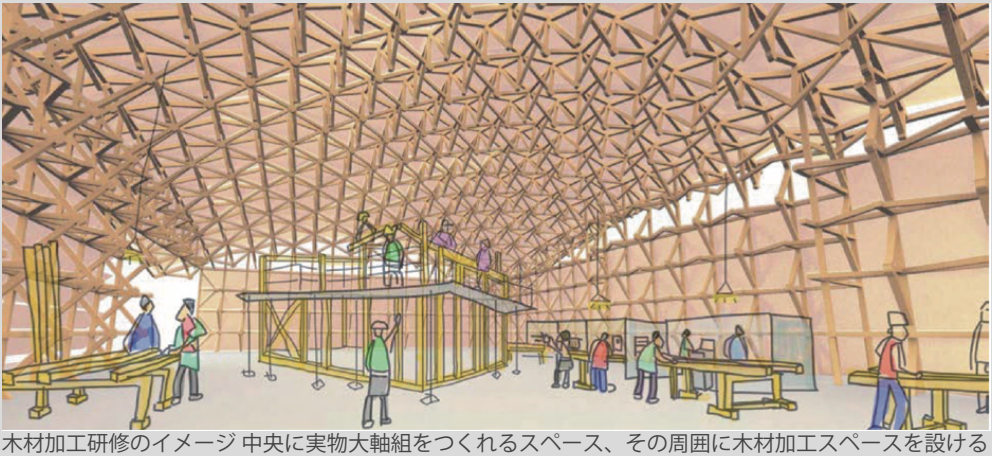




軸組イメージ　　加工ユニット　　松笠

周辺環境に配慮したデザイン

・従来の工場にありがちな、無表情な外観ではな く、敷地境界の木塀、近隣の樹木や民家等に呼 応するような、柔らかい表情をもった建築とした。また、笠のような屋根とし、周辺の住宅に合わ せて屋根や外壁は適度なスケールで分節している。敷地北東部に研修棟 (事務・研修施設) を、北西 部に木材加工場を配置。南側に 25 台分の 駐車場、研修棟横に 6 台分の駐輪場を設け前面道路寄りに事務所諸室を設けることで敷地 内へのアプローチを管理でき、外部空間を大きく取る ことで近隣住民等が立ち寄りやすくなる。



木材加工研修のイメージ 中央に実物大軸組をつくれるスペース、その周囲に木材加工スペースを設ける

11/29
[Tus]

竣工年
1994 年
住所
熊本市西原 3 丁目 2 番

熊本市営詫麻団地

不明
坂本一成 + 長谷川逸子 + 松永安光

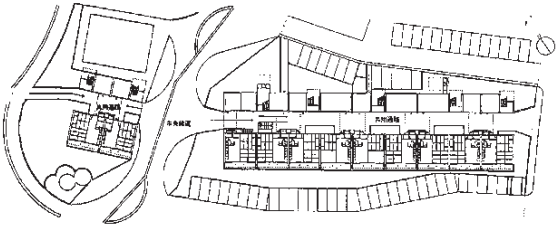
3 人の建築家による計画

1960 年代後半に建設された約 4 ヘクタールの低層団地の 3 期にわたる建替計画であり、熊本市の北東部、阿蘇へ通じるなだらかな丘陵地で落ち着いた住宅地である。
このプロジェクトでは 3 人の建築家が協同し、多様で開放的な環境を求めて 3 人がそれぞれ設計した住棟を混在させている。団地中央を縦断する歩行者専用のプロムナード (中央緑道) は、緩やかにカーブしながらゲートボール場、児童公園、広場、せせらぎ等を構成し、住民の憩いの場となっている。

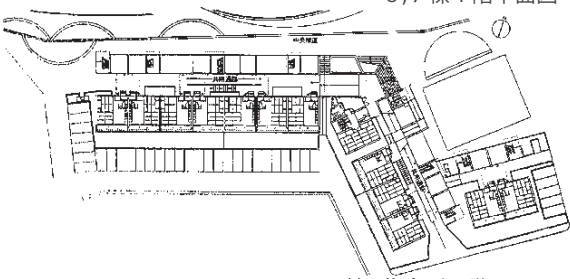
熊本市営託麻団地の見どころ

坂本一成棟

中央緑道であるパブリックな場を住棟内部まで引き込み、この空間の連続性と解放性を内部まで引き続けている。さらに建物内部を縦断している住居者のアクセス経路である５ｍ幅の縦断通路は中央緑道だけでなく、他の住棟や外周道路とも緩やかに結ばれ、この住棟を団地内外に開いたものにしている。そのほかに外部吹き抜けによる各住戸の採光、通風といった居住性を高めると共に、公的な場と私的な場を滑らかに連続させている。ここでは住戸から団地、そして団地外までの滑らかな領域の関係性が見られる。



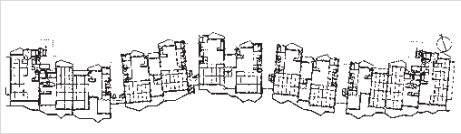
6，7 棟 1 階平面図



9,10 棟 , 集会所 1 階平面図

長谷川逸子棟

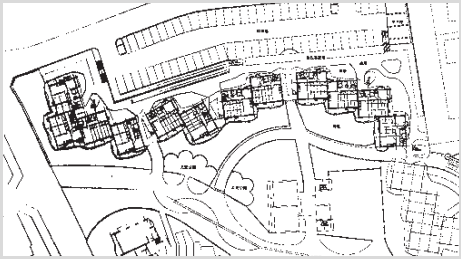
住環境は決して建築計画された初期の風景が持続することなく、人間を含めた生物的生態の混交によって作られる。人によって棲まれた団地において形成される様相を重層化する意志を積極的に誘発していくことが集合住宅の魅力である。しかし、日本の場合は狭い住宅から物がどんどん溢れてしまい、外部空間が物置のごとく使用されてしまうので、外観の変貌は凄まじい。外に向ける表情は素材によって異なるが、ディティールや公共空間の在り方で住む側のマナーも作られていく。



5 棟 1 階平面図

松永安光棟

従来の集合住宅に見られた閉塞感を払拭するために、住宅構成にはスラブと柱によるドミノ方式を応用し、開放的で流動的なプランを作り出した。実際は壁柱によるラーメン構造によって壁量が多くなったが基本的には各住戸が３面に開口を持つことになった。さらにバルコニーは原則として住戸４周に張り巡らされ、特徴的な外観を作り出している。



4 棟 1 階平面図

11/29
[Tue]

熊本県営保田窪第一団地

山本理顕

竣工年
1991 年
住所
熊本市帯山 1 丁目 28

くまもとアートポリスの集合住宅の完成第一号

くまもとアートポリス集合住宅の完成第一号。共に集まって
住めるような環境を、住戸の配置、機能、デザイン等によっ
ていかにつくることができるか。
設計者が最も苦心した点である。
「共に住む」ことがいま都市の中では求められている。
しかし、いまだにそのためのモデルは明瞭になっていない。
公営住宅はどう描かれるべきなのか。
意欲的な提案の一つである。

[料金]　　無料
[開館時間]

熊本県営保田窪第一団地の見どころ

外部と住戸の関係

110 戸からなるこの集合住宅は、3 つの住棟と集会室が中央広場を囲む構成となっている。中央広場は敷地内の単なる空きではなく、生活の場としての積極的な意味づけがなされている。

この完全に閉じられた中央広場に入るためにはふたつの方法しかない。ひとつは住戸内を通過して中央広場に入る方法、もうひとつは集会室を通過して中央広場に入る方法である。つまり単に通過するためにのみ、また無目的に外部から中央広場に入ることはできないようなシステムになっている。

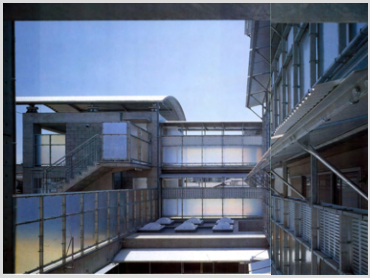
中央広場

家族棟と寝室

気候のよい時期の生活を快適にするために、家族棟は閉じられた中央広場に向け、可能な限り開放的に作られている。家族棟と寝室は分離されている為 3 階から上ではブリッジ、2 階部分ではコートがこの二つを結びつけている。分棟配置によってすべての居室は外部に対して 2 面開口を取ることができる。これは熊本の厳しい夏の暑さに対する配慮である。そして、各家族室には必ずテラスが付属している。テラスの広さは最小でも椅子とテーブルが置かれておりその利用は積極的に行われている。

集会室

中央広場に対して解放された室内と、背後のスクリーン及び上部に深い庇がかかる部分からなる。庇は夏場の日除けであり、雨天の子供たちの遊び場となる。そして集会室は単なるミーティングルームとしての役割の他に、イベントの為の舞台、あるいは外部から中央広場に入るためのゲートの役割も果たしている。



家族棟・寝室

11/29
[Tue]

竣工年
1991 年
住所
熊本市草葉町 5-13

熊本北警察署（現　熊本中央警察署）

篠原一男＋太宏設計事務所

都市環境に開かれたアートポリス建築

県全域を対象にしたネットワーク型のまちづくりとして注目されている「くまもとアートポリス」。アートポリスの発注第一号である熊本警察署は、熊本市街を斜めに分断する白川のほど近く、その西数百 m に熊本城を望むことのできる国道沿いの 7000 ㎡が敷地である。

西側の国道に面して東西に細長い敷地は奥でくびれた格好になっており、建物の外形は、その土地形状からほぼ自動的に割り出されている。「昨日ごとにボリュームをまとめ、敷地の持つ軸線の上で強引に接合した。住宅に始まり、東工大百年記念館（1987 年）、K２ビルディング（90 年）などに連なるコンセプトを継承、その文脈に乗せた」。

熊本北警察署の見どころ

数寄屋の極意の空間

ガラス張りの警察署と呼ばれるように正面はすべてハーフミラーが採用され、従来の警察のイメージを一新している。

建物は大きく 2 つの機能に分けられ、西側にあたる正面には交通課、道場など、パブリックな用途、そして東側には事務的な用途が置かれている。東西 2 つのブロックは内部機能を反映して、構造形式も異なる。西は鉄骨造、東はＳＲＣ造が採用されている。

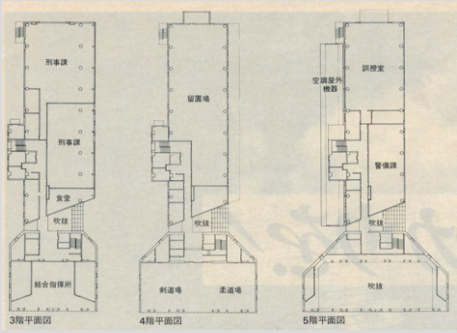
正面の上層部分には、柔剣道場やギャラリーが配置されているため、上に行くほど広がる構造になっている。
屋上は、集会場としても使うために、空調屋外機器は、側面に吊り下げた黒い円筒の中に収められている。

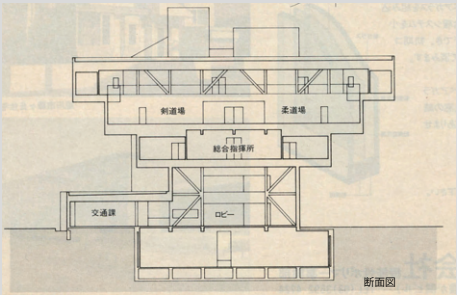
見通しの良い外観

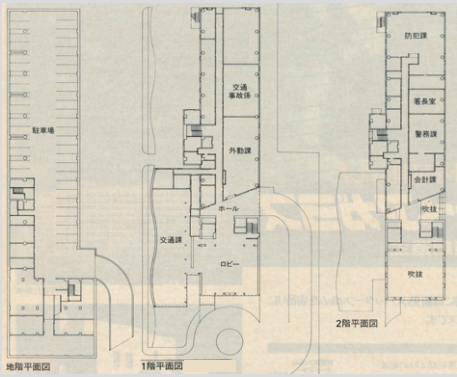
篠原アトリエデザインの家具

開かれた警察署の計画

軸性を強調して国道側に最大限にファサードを広げた構成は、都市環境に対する働きかけを意図したものだ。オーバーハングするガラスカーテンウォール部分については、1~2 階吹き抜けに市民応接のためのロビー、3 階に総合指揮所、4~5 階吹き抜けに公開の柔剣道場が収められている。こうして開かれたイメージの警察署を実現できた。







11/28
[Mon]

熊本城

不明

竣工年
1607
住所
熊本県熊本市中央区本丸１－１

日本三大名城の一つ「熊本城」

熊本城は、安土桃山時代から江戸時代の日本の城。
別名「銀杏城」。

加藤清正が中世城郭を取り込み改築した平山城で、加藤氏改易後の江戸時代の大半は熊本藩細川家の居城。明治の西南戦争の戦場となった。西南戦争の直前に大小天守や御殿など本丸の建築群が焼失し、現在の天守は 1960 年の再建である。

宇土櫓などの現存する櫓・城門・塀 13 棟は国の重要文化財に指定されている。また、城跡は「熊本城跡」として国の特別史跡に指定されている。

[料金]　入館料 500 円
[開館時間]　9:00-16:30

熊本城の見どころ

堂々たる熊本城天守閣

最大の特徴は、大小 2 つの天守閣があることで、大天守は三層六階地下一階、小天守は二層四階地下一階となっていて、四面に配した「千鳥破風」(屋根の上に屋根本体から独立した三角形の切妻破風を直接置いた形のもの) と最上階の南北につくられた「唐破風」(曲線を連ねた形状の破風板を、屋根に付けたもの) と呼ばれる建築様式が見どころ。

宇土櫓

昭君之間

熊本城の中で一番格式が高い部屋で、慶長期の特色である鉤上段を設け、北側に床の間と違棚、西側に付書院と違棚、東側に帳台構えが供えられた書院造りである。

床壁や襖に中国の故事「王昭君」の物語の絵を、天井に花木の絵を復元しています

闇り通路

本丸御殿はふたつの石垣を跨ぐように建っているため、地下通路を有する特有な構造となっている。その地下通路は昼間でも暗いことから、闇り通路と呼ばれている。闇り通路はの入り口は闇り御門と呼ばれ、その上部の屋根は唐破風となっている。

清正流石組

胆かつ精巧な造りで幾重にも連なる石垣群は、堅牢たる要塞を象徴する「忍び返し」となっている。

宇土櫓

築城当時の姿を今も残す貴重な建物で、20m の高さを誇る石垣の上にそびえる櫓は、難攻不落の熊本城の象徴である。重要文化財に指定されている。

闇り通路

11/29
[Tue]

竣工年
1976 年
住所
熊本市中央区二の丸 2

熊本県立美術館

前川國男

城郭での佇まい

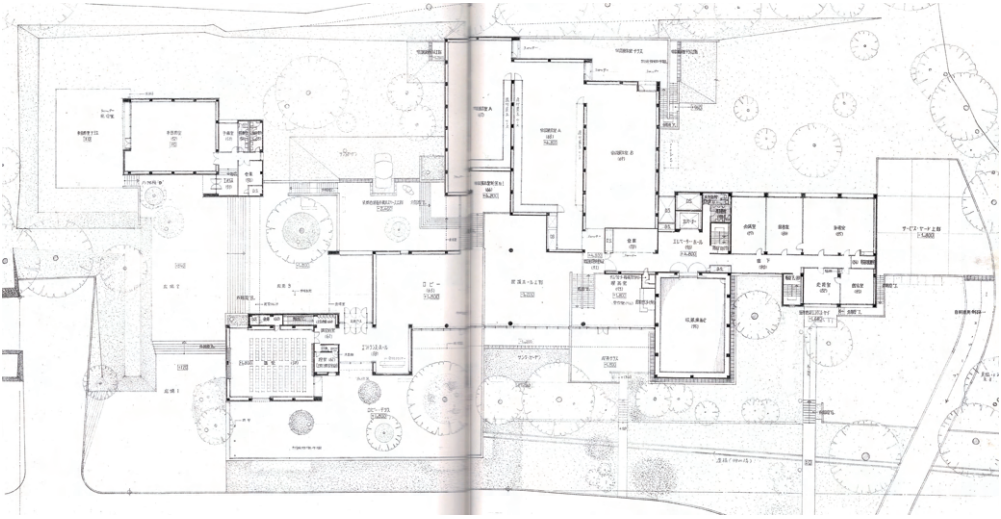
城郭の西端に建つ当美術館は、あたかも以前からそこに存在しているような様態で示されるべきであると考え

1) そこに現在ある熊本の気候風土に根付いた樹木をさらに生き生きと育てるような設計をすること
2)「主」たる天守閣に対して、美術館は「従」であるとし、美術館の機能をそぐわない程度で高さを抑えること。
3) 炻器質のタイルを使用しており、これは環境と融合するようなものとして選ばれている。

といった 3 つの条件を課して設計を行っている。

[料金]　入館料 430 円
[開館時間]　9:30~17:15

熊本県立美術館の見どころ



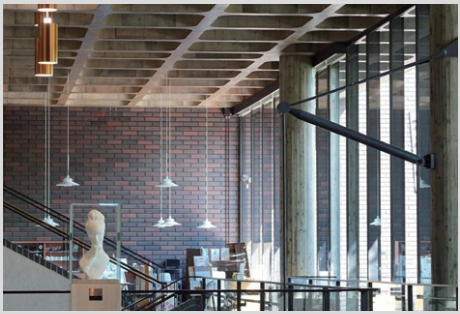
平面図

ロビー、吹き向けホール

これらの空間は連続しながらも、リズミカルな壁の配置と、床の高さを違えることで、おのおのの空間の特性を十分に生かしている。
直接的な機能論では、説明することができないような美術館のホールであるが、「空間のバランス上からも、“たぶたぶ” とした広さをつくり出すという意図からも、どうしてもこのくらいの大きさが必要であった」と言及している。

格子梁とモデュロール

大屋根の素材としてコンクリートを採用した。この素材の特性である可塑性を十分に生かし、格子梁と一体化して大屋根を構成している。格子梁の間隔は、1m800 を標準とし、力の集中する柱の回りは 1m200 の吹寄せにしている。デュールの基本は、1m200 と 1m800 である。



26 Sat

27 Sun

28 Mon

29 Tue

MEMO

均建築 2022 年号
2022 年 11 月 26 日初版発行

発行：若松均研究室
https://whlab.localinfo.jp